

マルコ聖福音書序言

記者 第二福音書の記者マルコ、一名ヨハネの事跡は、使徒行録およびパウロの書簡の中に見え、エルザレムにあつた母の家が教会所に当てられたことや、ペトロが天使によつて監獄より救い出された時、すぐにその家に行つたことなどを載せているから、その一家が使徒たちに愛されたことが推しはかられる。彼はバルナバの従弟で、パウロ、バルナバ兩人の第一回伝道旅行に従つたが、マケドニア国の布教に従うことを否んだため、一時バルナバとパウロとの争論の種となり、ついに両人は手分けして布教するに至つた次第は使徒行録十五章の終わりに見られる。さて、しばらくバルナバとともに布教し、また再びパウロと会い、古伝の一定して語るところによると、特にペトロの友とも弟子とも書記ともなつて、ついに下エジプトに布教し、アレキサンドリアの教会を設立して、そこで殉教したもののがある。

組織 本書はイエズスの幼年時代の事跡をおいて、もっぱら、その公生活を述べ、大体は三編に分けられ、第一にはイエズスの公生活（一一～十章）、第二にはイエズスの最後の週間の事がら、および受難（十一～十四章）、第三にはイエズスの復活および昇天（十六章）を述べる。詳細は目次によつて見ること。

目的 聖マルコが福音書を書いたのは、聖マテオがユデア人のために書いたのと、その目的が

異なり、ロマ信者または異教より帰依きえいした人々のためであることは、諸伝がこれを証するばかりでなく、またひとりでに本文の上からも明らかである。すなわち、ヘブレオ語またはユデア地方の習慣を記す時は、これを解釈し、モイゼの律法、ファリザイ人の風俗、またはユデア人だけに關することは多く載せることをせずに、旧約聖書の引用も少なく、もっぱらイエズスの奇跡を述べ、イエズスの説教に至つては往々これを省略してしまい、世の終わりに關することを少し述べたにすぎない。

特色 行文が簡潔で活気に富んでいることは、マルコ福音書の殊に著しい特色である。諸家の伝えるところによると、その記事は、もっぱらペトロの口述するところを綴つたものであるため、特にペトロの事跡に詳しいけれども、その名譽となるべきことを載せない。それゆえペトロの物語る事実をロマ人の頗みによつてマルコが記述したものであると言われる。

年代 これは、つまびらかでない。紀元四二年～四四年ごろの著作であろうとも言われ、あるいは七〇年以前だろうとも言われる。

マルコのイエズス・キリスト聖福音書

第一編 キリストの公生活

第一項 キリストの先駆者^{せんくしゃ}

2-1 洗者ヨハネの宣教（ルカ3：1～14¹²） 1 神の御子イエズス・キリストの福音の初め。 2

予言者イザヤ「[の書]に書きしるして、「見よ、われ、わが使を汝の面前に遣わさん、彼、汝の前に汝の道を備うべし。¹ 3 荒野に呼ばわる人の声ありて、いわく、汝ら主の道を備えよ、その小道を直くせよ」² とあるがごとく、4 ヨハネ荒野にありて洗し、かつ罪を許されたために改心の洗礼を受けんことを述べ教えしが、5 ユデアの全地方およびエルザレムの人、みな彼のもとに出で來り、おのが罪を告白してヨルダン「川」にて彼に洗せられたりき。

キリストを証明す（ルカ3：16²⁷） 6 ヨハネはらくだの毛織^{けおり}を着、腰に皮帶をしめ、いなごと

野蜜とを食しおりしが、宣教して言いけるは、7 われよりも力ある者わがのちに來り給う。われはかがみて、そのはきものひもを解くにも堪えず、8 われは水にて汝らを洗したれども、彼は聖靈にて汝らを洗し給うべし、と。

イエズス洗せられ給う（ルカ3：13²¹、17²²） 9 かくてそのころ、イエズス、ガリレアのナザレト

10 より來り、ヨルダン〔川〕にてヨハネに洗せられ給いしが、10 やがて水より上がり給うや、天開け、〔聖〕靈鳩のごとくくだりて、わが上に留まり給うを見給えり。11 また天より声して「いわく、汝は、わが愛子なり、われ汝によりて心を安んぜり、と。

11 汝は、わが愛子なり、われ汝によりて心を安んぜり、と。
 荒野にて断食し給う（マテオ4・1～13
 ルカ4・1～13） 12 「聖」靈ただちに彼を荒野に行かしめ給いしが、
 四十日四十夜、荒野にありてサタン*に試みられ、野獸とともに居給い、天使ら彼に仕えたり。

第二項 キリストの宣教の初め

13-12 14 イエズス宣教を始め給う（マテオ4・14～15
 ルカ4・14～15） 14 ヨハネの捕われしのち、イエズス、ガリレアに至り、神の国の福音を述べ伝えて、15 のたまいけるは、時は満ちて神の国は近づけり、汝ら改心して福音を信ぜよ、と。

15 シモンおよびアンデレア召さる（マテオ4・16～18
 ルカ5・1～11） 16 かくてガリレアの湖辺うぶべを過ぎ給うに、シモンと、その兄弟アンデレアとが湖うみに網打てるを見て、すなわち漁師なりき。17 イエズス彼らに向かい、われに従え、われ汝らを人をすなどる者となしめん、とのたまいしかば、18 彼ら、たちに網をおきて従えり。

19 ヤコボとヨハネ召さる（マテオ4・19～21
 ルカ5・10） 19 なお少しく進み給いて、ゼベデオの子ヤコボと、

20 その兄弟ヨハネとが、また舟の中に網を繕いつつおるを見て、20 ただちに彼らを召し給いしに、彼ら、その父ゼベデオを雇い人とともに舟におきて従えり。

宣教の結果 21 「二回」

21

22 て教え給いければ、22人、その教えに驚きいたり。そは律法學士^{*}らのごとくにせずして權威ある者のごとくに教え給えばなり。

悪魔つきいやざる (ルカ4・33～37)

23

24 呼ばわりて、24言いけるは、ナザレトのイエズスよ、われら汝と何のかかわりがあらん、われらを滅ぼさんとて來り給えるか、われ汝のたれなるかを知れり、すなわち神の聖なる者なり、と。

25 イエズスこれを責めて、汝、黙してその人より出でよ、とのたまいしに、26汚鬼^{おき}その人をひきつけさせ、声高く叫びつつ出で去れり。27かくて人々みな恐れ入りて、こは何ごとぞ、何らの新しき教えぞ。彼は權威をもつて汚鬼らにすら命じ給えば、彼らこれに従うよ、と互いに詮議^{せんぎ}するに至りければ、28イエズスの名声^{きこえ}たちまちガリレアの全地方に広がれり。

ペトロの姑^{しゅうとめ}いやざる (ルカ4・38～39)

29

29彼ら、やがて会堂を出で、ヤコボ、ヨハネとともに、シモンとアンデレアとの家に至りしが、30シモンの姑^{しゅうとめ}熱をわざらいてふしいければ、ただちに、そのことをイエズスに申したるに、31近づきて、その手を取り、これを起こし給いしかば、熱た

ちどころに去りて、かの女^{おんな}、彼らに給仕したり。

多くの病人と悪魔つきいやざる (ルカ4・40～41)

32

32夕暮に至り、日入りてのち人々病める者および悪魔につかれたる者を、ことごとくイエズスのもとにもたらし、33町の人こそりて門に集まりたりしが、34イエズスさまざまの病をわざらえる人を多くいやし、また悪魔を多く追い出だして、もの言うことを許し給わざりき、そは彼らイエズスを知ればなり。

34

33

32

31

30

29

28

27

26

25

24

23

22

21

20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0

-1

-2

-3

-4

-5

-6

-7

-8

-9

-10

-11

-12

-13

-14

-15

-16

-17

-18

-19

-20

-21

-22

-23

-24

-25

-26

-27

-28

-29

-30

-31

-32

-33

-34

イエズス、ガリレアを巡り給う（ルカ4・42～44） 35 イエズス、未明^{みめい}⁵に起き出で、寂しき所に至りて祈りい給えるを、36 シモンおよびともにおりし人々あとを慕い行きて、37 これに会いしかば、人々汝を尋ぬ、といしに、38 イエズス彼らにのたまひけるは、われら、もよりの村々町町へ行かん、かしこにもまた宣教すべし、われは、これがために來りたればなり、と。39 かくて所々の会堂およびガリレア一般に宣教し、かつ悪魔を追い払い給えり。

40 らい病者いやさる（マテオ8・4～5 ルカ5・12～16） 40 時に一人のらい病者、イエズスのもとに來り、ひざまずきて願い言ひけるは、おぼしめしならば、われを清くするを得給う、と。41 イエズスこれをわれみ給い、手をのべ、これに触れてのたまひけるは、わが意なり、清くなれ、と。42 これをのたもうや、らい病たちに彼を去りて彼清くなれり。43 イエズスこれを戒め給い、44 汝、慎しみて人に語ることなれ、ただし行きて、おのれを司祭⁶に見せ、清くなりたるためにはらへの証拠としてモイゼ^{*}の命ぜしものを献げよ、とのたまひて、ただちに彼を去らしめ給えり。45 しかれども彼出でて、そのことを語り言い広め始めしかば、イエズスもはや、あらわに町に入りがたくなりて、外の寂しき所に居給いしが、人々八方より、そのもとにつどい來りいたり。

① マラキア3・1 ② イザヤ40・3 ③ ラテン訳では悔悛。④ ラテン訳では悔い改めて。⑤ ラテン訳では朝早く。
⑥ ラテン訳では司祭長。⑦ レビ記14

第三項 人々イエズスに反抗し始む

イエズスまたカファルナウムに入り給う 1 数日ののち、イエズスまたカファルナウムに入り給いしが、2 家に居給うこと聞こえしかば、人々おびただしく集まり來り、門口すら隙間もなきほどなるに、イエズス彼らに教えを述べい給えり。

中風者いやさる（ルマテオ9・1¹⁷～26） 3 ここに人々、四人にかかれたる一人の中風者をもたらししが、4 群衆のために、これをイエズスに差し出だすことあたわざれば、居給う所の屋根¹をはぎてこれを開き、中風者のふせる床²をつりおろせり。5 イエズス彼らの信仰を見て、中風者に向かい、子よ、汝の罪許さる、とのたまいしかば、6 ある律法學士^{*}ら、そこに坐して心に思ひけるは、7 彼、何ぞかくのごとく言うや、これ冒瀆するなり、神ひとりのほか、たれか罪を許すことを得んや、と。8 イエズス彼らのかく思えるを、ただちにその心に知りてのたまひけるは、何すれば、さる思いを心にいだける。9 中風者に汝の罪許さると言うと、起きて床を取りて歩めと言うと、いづれかやすき。10さて汝らをして、人の子地において罪を許すの權あることを知らしめん、とて中風者に向かい、11 われ汝に命ず、起きよ、床を取りて、おのが家に行け、とのたまひしに、12 彼たちまち起きて床を取り、衆人見る目の前を過ぎ行きしかば、みな感嘆に堪えず、神に光榮を歸し、われら、かつてかくのことを見ざりき、と言うに至れり。

マテオ召さる（ルマテオ9・9¹³～32） 13 イエズスまた湖辺³に出で給いしに、群衆こぞりて来りければ、彼らを教えい給いしが、14 通りがけにアルフェオの子レヴィが收稅署⁴に坐せるを見て、われに従え、とのたまいしかば、彼、立ちて従えり。15 かくて彼の家にて食につき給いければ、多くの税吏⁵と罪人とは、イエズスおよび、その弟子たちとともに列席したり、けだしイエズスに従える者、

すでに多かりき。¹⁶ 律法學士^{*}、ファリザイ人ら、イエズスが税吏^{みつぎとり}および罪人とともに食し給うを見て、その弟子たちに言ひけるは、「汝らの師は何ゆえ税吏^{みつぎとり}、罪人とともに飲食するぞ」と。¹⁷ イエズスこれを聞きて彼らにのたまひけるは、「壯健なる者は医者を要せず、病ある者こそ「これを要するなれ」、すなわち、わが來りしは義人を呼ぶためにあらずして罪人を「呼ぶためなり」と。

断食の件（マテオ9・14
ルカ5・33～39）¹⁸ ヨハネの弟子たちとファリザイ人とは断食したりければ、來りてイエズスに言ひけるは、「ヨハネとファリザイ人の弟子は断食するに、汝の弟子は何ゆえに断食せざるぞ」と。¹⁹ イエズス彼らにのたまひけるは、「花婿^{はなよど}の、おのれらとともににある間、介添いかでか断食することを得ん。花婿のともにある間は、彼ら断食することを得ず。²⁰ されど花婿の彼らのうちより取り去らるる日來らん、その日には断食せん。²¹ 新布^{あらわの}の切れを古き衣服にはぐ人はあらず、しかせば、その新しきはぎは、かえつて古きものを引き裂きて破れば大いなるべし。²² また新しき酒を古き皮袋に盛る人はあらず、もし、しかせば酒は皮袋を裂きて流れ、皮袋もまたすたらん、新しき酒は新しき皮袋にこそ盛るべけれ」と。

弟子たち麦穂を摘む（マテオ12・1～8）²³ 主また安息日にあたりて麦畠をよぎり給えるに、弟子たち歩みつつ穂を摘み始めしかば、²⁴ ファリザイ人、イエズスに向かい、見よ、彼らが安息日になすべからざることをなせるは何ぞや、と言ひければ、²⁵ イエズスのたまひけるは、「ダヴィド³が急に迫りて、おのれも伴える人々も飢えし時になしことを汝ら読まざりしか、²⁶ すなわち、いかにして大司祭アビアタルの時、神の家に入りて、司祭たちのほかは食すべからざる供えのパン⁴を食し、伴える人々にも与えしかを。²⁷ また、のたまひけるは、安息日は人のために設けられ

て、人は安息日のために造られず、²⁸されば人の子^{*}はまた安息日の主たるなり、と。

①平たい屋根であった。②ラテン訳では神をあがめ。③サムエル上²¹・6 ④旧約の幕屋。⑤レビ記²⁴・9 ⑥

出エジアト記¹⁶・29

手なえいやさる(ルマテオ¹²・¹³カ⁶・⁶~¹⁰¹⁴)

1 イエズスまた会堂に入り給いしに、片手なえたる人そこおりければ、²ファリザイ人、イエズスを訴えんとて、彼が安息日にいやすやいなやをうかがいおりしが、³イエズス手なえたる人に向かいて、⁴真中に立て、とのたまい、⁴また彼らに向かいて、安息日に善をなすはよきか、惡をなすはよきか、人を救うはよきか、これを滅ぼすはよきか、とのたまいしに、彼ら默然たりき。⁵イエズス彼らが心のかたくなるを憂い、怒りを含みて見まわしつつ、かの人に、手をのべよ、とのたまいければ、彼のべて、その手いえたり。⁶しかるにファリザイ人は出でてただちに、いかにしてかいエズスを滅ぼさんと、ヘロデ^{*}の徒輩とともに協議したり。

湖辺にて多くの病人、悪魔つきいやさる(ルマテオ¹²・¹³カ⁶・¹⁷~¹⁹¹⁶)

7 イエズス弟子たちとともに湖の方に避け給いしに、群衆おびただしくガリレアおよびユダヤより、⁸またエルザレム、イデュメア、ヨルダン〔川〕のかなたより「来りて」従い、かつチロとシドンとの地方よりも、イエズスの行ない給えることを聞きて、人々いとおびだしく、そのもとに來りしかば、⁹イエズス群衆に押し迫られざらんために、小舟を、わが用に備えおかんことを弟子たちに命じ給えり。¹⁰けだし、あまたの人をいやし給うにより、病ある者は、みな彼に触れんとて飛びつくほどなりき。¹¹汚鬼らもイエズスを見る時は、その前に平伏し叫びて、¹²汝は神の御子なり、と言いいければ、イ

エズス、おのれを表わすなと、きびしく戒めい給えり。

第四項 使徒の選定より第一の派遣までの事実

使徒の選定（ルカ10：12～14） 13 かくてイエズス山に登り、好み給える人々を召し給いしに、彼ら來りしかば、14 十一人を立てて、おのれとともににおらしめ、かつ宣教に遣わさんとて、15 これに与うるに、病をいやし、悪魔を追い払う権能をもつてし給えり。16 すなわちシモン、これをペトロと名づけ、17 ゼベデオの子ヤコボと、ヤコボの兄弟ヨハネ、これらをボアネルゲスすなわちいかずちの子と名づけ給えり。18 またアンデレア、フィリッポ、バルトロメオ、マテオ、トマ、アルフェュオの子ヤコボ、タデオ、カナアンのシモン、19 およびイエズスを売りしイスカリオテのユダなりき。

律法學士らのざん言（ルカ12：15～24） 20 彼ら家に至りしに、群衆再び集まりしかばパンを食することだに得ざりしが、21 イエズスの親族これを聞き、彼、狂せりと言ひて、これを捕えんために出で来れり。22 またエルザレムよりくだりし律法學士らも、彼、ペヘルゼブ^{*}につかれたり、その惡魔を追い払うは惡魔の頭によるなり、と言ひいたり。

イエズスのご答弁^{どうべん} 23 イエズス彼らを呼び集めて、たとえをもつてのたまひけるは、サタン^{*}かでかサタンを追い払うを得んや。24 国自ら分かれ争う時は、その国立つあたわず、25 家自ら分かれ争う時は、その家立つあたわず、26 サタンもし、おのれに立ち逆らわば、これ自ら分かれ争

27 うもの、立つあたわずして、かえつて滅ぶべし。27 いかなる人も強き者の家に入りて、その家具をかすめんには、まず強き者を縛らざればあたわず、「縛りてのち」その家をかすむべし。28 われ誠に汝らに告ぐ、人の子²らがいっさいの罪、および冒瀆せしその冒瀆は許されん、29 しかれども聖靈を冒瀆せし者は永遠に許しを得ず、永遠の罪に服すべし、と。30 かくのたまいしは、人々、彼、汚鬼おきにつかれたり、と言いおればなり。

イエズスの母と兄弟

(マテオ12・46
ルカ8・19
マテオ13・21
マテオ13・50)

31 時にイエズスの母と兄弟たちと來りて外に立ち、人を遣わして彼を呼ばしめしに、32 群衆、彼をめぐりて坐したりけるが、人々彼に告げて、見よ、汝の母と兄弟たちと外にありて汝を尋ぬ、と言ひしかば、33 イエズス彼らに答えてのたまいけるは、たれか、わが母、わが兄弟なるぞ、と、34 また、おのがめぐりに坐せる人々を見まわしつつのたまいけるは、これぞわが母、わが兄弟なる、35 そは神のみ旨を行なう人は、これわが兄弟、わが姉妹、わが母なればなり、と。

①ラテン訳では、めくら。②人間の意。



天国のたとえ

1

集まりしかば、イエズスは湖うみに浮かべる舟に乗りて坐し給い、群衆はみな岸に沿いて陸おかにおれり。

2 かくてたとえをもつて多くのことを教え給いしが、その教えのうちにのたまいけるは、

種まきのたとえ

(マテオ13・3
ルカ8・5
マテオ13・8)

3 汝ら聞け。種まく者、まかんとて出でしが、4 まく時、

ある種は道ばたに落ちしかば、空の鳥來りてこれをついばめり。5 ある種は土少なき石地に落ちしに、土の深からざるによりて、ただちに生え出でたれども、6 日出するや焼けて、根なきがゆ

7 えに枯れたり。7 ある種は、茨いばらの中に落ちしに、茨育いばらいくちてこれをおおいふさぎたれば実を結ばざり
8 き。8 ある種は良き土に落ちしかば、穂出ほしゆつでて実り立ち、一つは三十倍、一つは六十倍、一つは
9 百倍を生じたり。9 また、のたまいけるは、聞く耳持てる人は聞け、と。

10 たどえの理由(マテオ13・10～17) 10 イエズス一人居給う時、ともにありし十二人、このたどえを
11 問いしかば、11 彼らにのたまいけるは、汝らは神の国の奥義おくぎを知ることを賜わりたれど、外の人
12 は何ごともたどえをもってせらる、12 彼らは見て見ゆれども見知らず、聞きて聞こゆれども悟ら
ず、これ立ち帰りて、その罪を許さることなからんためなり。

13 種まきのたどえの解釈(マテオ13・11～18) 13 また彼らにのたまいけるは、汝ら、このたどえを
14 知らざるか、さらば、いかにしてか、もろもろのたどえを悟らんや。14 種まく者は言葉をまくな
り、15 言葉まさかるる時、道ばたに落ちたるものは、人これを聞きたるに、サタン*たちまち来りて、
16 その心にまかれたる言葉を奪うものなり。16 石地にまかれたるものは、同じく言葉を聞き、ただ
17 ちに喜びてこれを受くれども、17 おのれに根なく、しばしのみにして、やがて言葉のために困難
18 と迫害と起これば、たちまちつまずくものなり。18 また茨の中にまかれたるものあり、これらは
19 言葉を聞くといえども、19 この世の心づかい、富のまどい、その他の諸欲入り來りて言葉をおお
20 いふさぎ、ついに実らざるに至る。20 良き土にまかれたるものは、言葉を聞きてこれを受け、あ
るいは三十倍、あるいは六十倍、あるいは百倍の実を結ぶものなり。

21 神の言葉に注意すべし(ルカ8・16～18) 21 また彼らにのたまいけるは、灯ともがを持ち来るは、ます
22 の下、あるいは寝台ねだいの下に置かんためなるか、燭台の上にのせんためにあらずや、22 すなわち何

23 ごとも隠されて現われざるはなく、ひそかにせられて、ついに公に出でざるはなし。23 聞く耳を
 24 持てる人は聞け。24 また彼らにのたまひけるは、汝ら聞くところを慎しめ。汝らの計りたる計り
 25 にて自らも計られ、しかも更に加えられん、25 そは持てる人はなお与えられ、持たざる人は、そ
 の持てるところをも奪わるべければなり。²

徐々に生え出ずる種のたとえ 26 また、のたまひけるは、神の国は、あたかも人が地に種をまく
 がごとし。27 夜、暁、寝ね起きして知らざる間に、その種、生え出でて生長す、28 すなわち地は
 自然に実を生じ、まず苗、次に穂、次に穂に満てる麦を生じ、29 すでに実りて刈り入れの時至れば、ただちに鎌^{かま}を入れるなり。

からし種のたとえ(マテオ13:18-31、ルカ13:18-32) 30 また、のたまひけるは、われら神の国を何になぞらえ、
 いかなるたとえをもつてたとえんか。31 これ一粒のからし種のごとし。地にまかるる時は地上の
 あらゆる種より小さけれども、32 まかれたるのちは育ちて、よろずの野菜より大きく、大いなる
 枝を生じて、空の鳥その陰に住むを得るに至る、と。

他のたとえ(マテオ13:34、35) 33 イエズスは人々の聞き得るに応じて、かかる多くのたとえを
 もつて教えを語り給い、34 たとえなくして人に語り給うことあらざりしが、弟子たちには何ごと
 をも別に解き明かしい給えり。

嵐を静め給う(マテオ8:22-25) 35 その日、暮に及びてイエズス弟子たちに、われら、かなた
 の岸に渡らん、とのたまひしかば、36 彼らは群衆を去らしめ、イエズスを舟に居給えるままに乗
 せ行き、ほかの舟どもこれに伴いたりき。37 時に大風^{おおかぜ}起こりて波は舟にうち入り、船中に満つる

38 に至りしが、38 イエズスは艤ともの方に枕して寝ね給えるを、弟子たち呼び起こして言ひけるは、師
 39 よ、われらの滅ぶるを顧み給わざるか、と。39 イエズス起きて風を戒め、また海に向かいて、黙せ
 40 よ、静まれ、とのたまいしかば、風やみて大風なぎとなれり。40 また彼らにのたまひけるは、汝ら何
 ゆえに恐るるぞ、いまだ信仰を持たざるか、と。彼ら恐ること、はなはだしく、こは何人なんびとぞや、
 風も湖うみもこれに従うよ、と語り合ひいたり。

① 投げまきして。② マテオ13・12、25・29、ルカ8・18、19・29 ③ 約三メートル以上。

1 **ゲラサにて惡魔つきいやさる** (マテオ8・26 39 ルカ8・28 34) 1さて湖うみを渡りてゲラサ人の地に至り
 2 しが、2 イエズス舟より出で給うや、汚鬼おきにつかれたる人、墓より出でて來り迎う。3 この人、
 3-2 墓を住み家かとし、鎖くさりをもつてすら、たれもこれをつなぎ得ず、4 すなわち、しばしば足かせと鎖
 4 とをもつてつながれたりしも、鎖を切り、足かせを碎きて、たれもこれを制し得る者なかりき。
 5 かくて絶えず叫び、かつ自ら石もて傷つけつつ、夜、昼、墓と山との中におりしが、6 はるか
 6-5 7 にイエズスを見て走り寄りて礼拝し、7 声高く呼ばわり言ひけるは、いと高き神の御子イエズス
 8 よ、われと汝と何のかかわりかあらん。われ神によりてこいねがう、われを苦しむことなけれ、
 9-8 と。8 そはイエズスこれに向かいて、汚鬼、この人より出でよ、とのたまえばなり。9 イエズス、
 10 汝の名は何ぞ、と問ひ給いしに、彼、わが名は軍團1なり、われらは數多ければなり、と書いて、
 11-10 11 おのれを、この地より追い払い給わざらんことを、せつに願ひいたり。11 さて、ここに豚の大
 12 いなる群、山辺やまべにありて草を食はみおりしが 12 [悪] 鬼あくどもこいねがいて、われらをやりて豚の
 13 中に入ることを得させ給え、と言ひければ、13 イエズスただちに、これを許し給いしに、汚鬼ど

も出でて豚の中に入り、およそ二千匹ばかりの群、勢いすさまじく湖に飛び入りて、湖の中におぼれ死せり。¹⁴ この豚を飼いおりし者ども逃げて町に田舎に吹聴したれば、人々事の顛末を見んとて出でしが、¹⁵ イエズスのもとに来りて、かの悪魔に悩まされし人の、すでに衣服を着、心確かに坐せるを見て恐れたり。¹⁶ また見たりし者、かの悪魔につかれたりし人になされたる次第と豚のこととを告げしかば、¹⁷ 彼ライエズスに、その境を去り給わんことを願い出でたり。

悪魔を追い出だされたる人の願い ¹⁸ イエズス舟に乗り給う時、かの悪魔に悩まされし人、伴わんことを願い出でたれど、¹⁹ イエズスこれをいれずしてのたまいけるは、汝の家、汝の親戚に至りて、主が汝の身に、いかばかり大いなることをなし、「いかに」汝をあわれみ給いしかを彼らに告げよ、と。²⁰ 彼すなわち去りて、イエズスのおのれになし給いことのいかばかり大いなるかを、デカボリに言い広め始めしかば、人々感嘆したり。

ヤイロの願い (^{マテオ9・18}_{ルカ8・40}¹⁹₄₂) ²¹ イエズスまた舟にて湖を渡り給いしかば、群衆おびただしく、そのもとに集まりしが、湖辺に居給うおりしも、²² 会堂の司の一人なるヤイロと言える者、出で來り、イエズスを見るや、足もとに平伏して、²³ わが娘、死になんなんとす、助かりて生くるよう來りてこれに^{あんじゆ} 按手し給え、としきりにといねがいければ、²⁴ イエズス彼とともに行き給うに、群衆おびただしく従いて押し迫りいたり。

血漏の女いやざる (^{マテオ9・20}_{ルカ8・43}²²) ²⁵ ここに十二年、血漏をわざらえる女ありて、²⁶ かつて、あまたの医師にかかりて、さまざまに苦しめられ、持てる物を、ことごとく費やしたれど、何のかいもなく、かえつて、ますます悪しかりしに、²⁷ イエズスのこと聞きしかば、雜踏のうちを、

うしろより来りて、その衣服に触れたり。28 こは、その衣服にだに触れなば、いゆべし、と言いたればなり。29 かくて出血たちまちにやみて女は病のいえたるを身に感じたり。30 イエズスただちに、おのれより靈能の出でしを悟り給い、群衆を顧みて、たれか、わが衣服に触れしそ、と31 のたまいかれば、31 弟子たち言ひけるは、群衆の汝に押し迫るを見ながら、なお、たれか、われに触れしそ、とのたもうや、と。32 イエズスこれをなしし人を見んとて見まわし給えば、33 女は、わが身になりたることを知りて恐れおののきつつ來り、み前に平伏して、つぶさに實を告げたり。34 イエズスこれにのたまいかれるは、娘よ、汝の信仰、汝を救えり、安んじて行け、汝の病いえてあれかし、と。

ヤイロの娘よみがえらせらる（ルテオ9・23
カ8・49 23
56 26） 35 なお語り給ううちに、会堂の司の家より人來りて言ひけるは、汝の娘、死せり。何ぞ、なお師をわざらわすや、と。36 イエズスその告ぐるところを聞きて、会堂の司にのたまいかれるは、恐ることなかれ、ただ信ぜよ、と。37 しかしてペトロとヤコボと、ヤコボの兄弟ヨハネとのほか、たれにも隨行を許さずして、38 会堂の司の家に至り給いしが、その騒ぎ、はなはだしく、人々泣き、かついたく嘆きつつおるを見て、39 イエズス内に入り給い、汝ら何ぞ騒ぎ、かつ泣くや、娘は死したるにあらず。寝ねたるなり、とのたまえば、40 人々これを笑いいたり、されど人をみな外に出だし、娘の父母^{ふぼう}と、おのが伴人とを連れて娘のふせる所に入り、41 娘の手を取りて、タリタクミ、とのたまえり、訳して、娘よ、われ汝に命ず、起きよ、の義なり。42 娘ただちに起きて歩めり、年は十二歳なりき。人々愕然^{がくぜん}として、いたく驚きしが、43 イエズスこのことを、たれにも知らずべからずときびしく戒め、食物を娘に

与えんことを命じ給えり。

^① 原文はレギオとあって六千人の軍隊を言う。



1 イエズス古里にて^{あるさと}輕蔑^{けいべつ}せられ給う(マテオ13・54 ~ 58) 1 イエズスここを去りて、わが古里に至り給い、弟子たちこれに従いたりしが、2 安息日あたり会堂にて教えを説き始め給いしかば、聞く人多く、その教えに驚きて言ひけるは、彼は、これらのこと、いざこより得たるぞ、3 その授けられたる知恵と、その手に行なわる、かばかりの奇跡とは、いかなるものぞ。3 彼はマリアの子にして、ヤコボ、ヨゼフ、ユダおよびシモンの兄弟^{*}たる職工にあらずや、その姉妹^{レギイ*}ら4 も、われらとともに、ここにあるにあらずや、と。かくて、ついに彼につまづきいたり。4 イエズス彼らのたまひけるは、予言者の敬われざるは、ただその古里、その家、その親戚のうちに5 おいてのみ、と。5 されば、ここには少数の病者を^{あんじゅ}按手^{して}しいやし給いしほか、何らの奇跡を6 もなし得給わず、6 彼らの不信仰に驚き、そのほとりの村々を巡りて教えい給えり。

7 使徒たちの派遣^(はけん)(マテオ10・1 ~ 15) 7 イエズス、十二人を呼びて、これを一人ずつ遣わすにのぞみ、汚鬼^{おき}ら「に対する」の權能^{けんのう}を授け、8 かつ途中、杖^{つえ}のほかに何ものも携えざること、旅袋、パンまたは帶にぜにを持つまじきこと、9 なみなみのはきものをはくも、一枚の下着を着まじきことを命じ、10 さて彼らのたまひけるは、いざこにても、ある家に入らば、その地を去るまで、そこに留まれ。11 また、すべて汝らを受けず、汝らに聞かざる者あらば、そこを立ち去りて彼らへの証拠として足のちりを払え、と。12 かくて弟子たち出でて改心すべきことを人々に説教し、13 あまたの悪魔を追い払い、注油^{ちゆうゆ}*して多くの病者をいやしいたり。

第五項 イエズス、ガリレアを巡り給う

14 14

ヘロデの当惑(マテオ14・1～2) 14 かくてイエズスの名、現われしかば、ヘロデ^{*}王聞きて、洗者^{*}
 ヨハネは死者のうちより復活したり、ゆえに奇跡、彼に行なわるるなり、と言えるに、 15 ある人
 人は、これエリアなりと言ひ、またある人々は、予言者なり、予言者の一人のごとし、と言えば、
 16 ヘロデこれを聞きて、わが首切りし、かのヨハネは、死者のうちより復活したり、と言えり。
 洗者ヨハネの入獄(マテオ14・3～5) 17 けだしヘロデ、かつて、その兄弟フィリッポの妻ヘロ
 ディアデをめとりたれば、彼がために人を遣わしてヨハネを捕え、監獄につなぎたりき。 18 そは
 ヨハネ、ヘロデに向かい、汝、兄弟の妻をいるはよからず、と言いたればなり。 19 さればヘ
 ロディアデ彼を恨みて殺さんと欲すれどもあたわざりき、 20 これヘロデは、ヨハネの義人たり、
 聖人たるを知りて、これを恐れ、かつ守り、これに聞きて多くのことを行ない、好みて彼に聞き
 いたるをもつてなり。

21 21

ヨハネの殉教(マテオ14・6～12) 21 かくて便宜よき日來り、ヘロデ、大官、千夫長およびガリ
 レアの貴族らを招待して誕生日の饗宴(きょうえん)を開きしが、 22 かのヘロディアデの娘⁴、入り来りて踊りを
 なし、ヘロデおよび列席の人々の心にかないしかば、王、娘に言ひけるは、欲しきものを、われ
 に求めよ、われ必ずこれを与えん、と。 23 また誓いていわく、何ごとを求むるも、たとえば、わ
 が国の半ばにても、われ、これを汝に与えん、と。 24 その時、娘出でて、われ何を求むべきか、

25 と母に言ひしに、彼、洗者ヨハネの頭を、と言ひければ、25 娘たちに王のもとに急ぎ行き、洗
 26 者ヨハネの頭こうべを盆にのせて、速かにわれに賜わらんことを欲す、と言えり。26 王、憂いしかど、誓
 27 いに対し、かつは列席の人々に對して娘に否むことを欲せず、27 刑吏を遣わし、ヨハネの頭を盆
 28 にのせて持ち来ることを命ぜり。刑吏、監獄にヨハネを首切り、28 その頭を盆にのせもたらして
 29 娘に与えしかば、娘は、これを母に与えたり。29 ヨハネの弟子たち聞きて來り、その屍しかばねを取りて
 墓に葬れり。

使徒たち帰る（マテオ¹⁴・ヨハネ⁶・ルカ⁹）

30 さて使徒たちイエズスのもとに集まり、すべてのなし
 31 しこと、教えしことを告げしかば、31 イエズス彼らに向かい、別に寂しき所に來りて、しばし休
 め、とのたまえり。そは行き來する人多くして、食するいとまだにあらざればなり。

群衆、イエズスを尋ぬ（マテオ¹⁴・ルカ⁹・11）

32 かくて舟に乗りて、別に寂しき所に行けり。33 彼
 らの行くを見て、多くの人これを知り、すべての町より徒步かちにて彼らに先立ちて、かしこに馳せ
 集まりしが、34 イエズス出でて群衆のおびただしきを見給い、その牧者なき羊のごとくなるをあ
 われみ、多くのことを教え始め給えり。

初めてパンをふやし給う（マテオ¹⁴・ヨハネ⁶・ルカ⁹）

35 36 37 38 39 35 36 37 38 39
 づきて言ひけるは、所は寂しく時はすでに遅し。36 人々を歸し、あたりの田舎家いなかやおよび村に行き
 て、めんめんに食物を買うことを得しめ給え、と。37 イエズス答えて、汝ら、これに食物を与え
 よ、とのたまいしかば、彼ら言ひけるは、われら行きて二百デナリオにてパンを買ひ、彼らに食
 せしめんか、と。38 イエズス、汝らいくつパンをか持てる、行きて見よ、とのたまいしに、彼ら

尋ね知りて、五つと二つの魚さかなとあり、と言えり。39かくて命じて人々をみな青草の上に組々に坐せしめ給い、40人々、百人、五十人ずつ坐したるに、41イエズス、五つのパンと二つの魚とを取り、天を仰ぎて祝し、パンを裂きて弟子たちに与え、これを人々の前に置かしめ、また二つの魚を一同に分かち給いしかば、42みな食して飽き足れり。43残れるくずを拾いしに、魚を合わせて十二のかごに満ちしが、44食せし男子は五千人なりき。

イエズス山にて祈り給う(マテオ14・22、ヨハネ14・23) 45イエズスただちに、弟子たちをしいて舟に乗らしめ、おのが人民を去らしむる間に湖うみを渡り、先立ちてベッサイダへおもむかしめ給い、46人を去らしめてのち祈らんとて山に行き給えり。

水上を歩み給う(マテオ14・24、ヨハネ6・21³³) 47夜ふけて舟は湖うみの真中にあり、イエズスは一人陸おかに居給いしが、48イエズス、弟子たちの逆風のためにこぎ悩めるを見給い、朝の三時7ごろ湖うみの上を歩みて彼らに至り、行き過ぎんとし給いしに、49弟子たち、その湖うみの上を歩み給うを見るや、化け物ならんと思ひて叫び出だせり。50そは、みな彼を見て心騒ぎたればなり。イエズスただちに言葉を出だして、たのもしかれ、われなるぞ、恐ることなけれ、とのたまい、51舟に乗りて彼らに至り給いしに、風やみたれば、彼ら、いよいよますます心のうちに驚きたり。52そは彼らの心にかたくなにして、かのパンのことを悟らざりければなり。

ゲネザレト地方巡教(マテオ34・3614) 53渡りてゲネザレトの地に至り、岸に舟をつけしが、54舟より出づるや、人々たちまちイエズスを認めて、55その全地方を馳せまわり、イエズスの居給うとり聞く所に、病める者を床とこのままにかきて、いざくまでもまわり始めたり。56かくて至る所、ある

いは村、あるいは町、あるいは田舎家^{いなかや}に、人々病者を巻^{ちまつた}に置き、彼の衣服のふきにだも触れんことを願いおりしが、触る人は、ことごとくいやされつつありき。

^①ルカ4・24、ヨハネ4・44 ^②雪駄（せつた）のようなもの。③ラテン訳では悔い改め。④名はサロメ。⑤ラテン訳では彼を悲します。⑥一デナリオは、およそ三十せんに当たる銀貨。⑦原文に第四更とある。⑧ラテン訳では、くらまされて。⑨ラテン訳では村、田舎家、町。



手を洗わずして食すること（マテオ15・1～9）

1 ファリザイ人^{*}および数人の律法學士、エルザレムより来りてイエズスのもとに集まりしが、2 弟子のうちなる数人の、常の手すなわち洗わざる手にてパンを食するを見て、これをとがめたり。3 これファリザイ人および、すべてのユダア人は、古人の伝えを守りて、しばしば手を洗わざれば食せず、4 また市^{いち}より来る時は、身を洗わざれば食せず、そのほか杯^{さかずき}、土器^{どき}、銅器^{とき}、床^{ゆき}の洗い清めなど、守るべきこと多く伝えられたればなり。

古人の伝え 5 ファリザイ人、律法學士ライエズスに問ひけるは、汝の弟子たちは何ぞ古人の伝えに従いて歩まず、常の手にてパンを食するや。6 答えてのたまひけるは、よいかな、イザヤが偽善なる汝らにつきて予言したこと、書きしるして「この民は、くちびるにて、われを尊べども、その心は、われに遠ざかれり。7 人の訓戒を教えて、むなしく、われを尊ぶなり」とあるにたがわず。8 すなわち汝らは神の^{おきて}捉^{つか}を捨てて人の伝えを守り、土器^{どき}、杯などの洗い清め、また、9 さる類^{たぐい}のこと多く行なうなり、と。9 また彼らにのたまひけるは、汝らは、おのが伝えを守らんとて、よくも神の捉を廃せるよ。10 すなわちモイゼいわく「汝の父母^{おもは}を敬え²」と、また、いわく「父もしくは母を呪う人は死すべし」と。11 しかるを汝らは言う、人もし、父もしくは母に向

かいて、すべてわれよりするコルバン、すなわち献げ物は汝に益とならんと言わば足れり、と。

12 しかして、そのほかは何ごとも父もしくは母になすを許さず。 13 かく、おのれの伝えし伝えによりて神の言葉を廃し、また、さる類のことを多く行なうなり、と。

13-12
14 人を汚すは何ぞ（マテオ¹⁰ ~ ¹⁵₂₀） 14 イエズス再び群衆を呼び集めてのたまいけるは、みな、われに聞きて悟れ。 15 外より人に入るものは何ものも人を汚すあたわづ、人より出するものこそ人を汚すなれ。 16 聞く耳を持てる人は聞け、と。 17さてイエズス、群衆を離れて家に入り給いしに、弟子たち、このたどえのことを見いければ、 18 彼らにのたまいけるは、汝らも、さまでに無知なるか。すべて外より人に入るものは、これを汚すあたわざることを悟らざるか。 19 これ、その心に入るにあらずして腹にくだり、すべて食物を清めてかわやに出すればなり、と。 20 また、のたまいるは、人より出するものこそ人を汚すなれ。 21 すなわち人の心の内より出づるは、悪念、姦淫、私通、殺人、盜み、むさぼり、狡猾、詐偽、猥せつ、悪しき目、冒瀆、傲慢、愚痴にし

て、 23 これら、いっさいの悪事は内より出でて人を汚すなり、と。

*

24 力ナアンの女の娘いさる（マテオ²¹ ~ ¹⁵₂₈） 24 イエズスここを去りてチロとシドンとの地方に行き、

25 家に入りて、たれをも見ざらんことを欲し給いたれど、得隠れ給わざりき。 25 すなわち汚鬼につけられたる娘を持つてゐる一人の女、イエズスのことを聞くと等しく入り來りて御足もとに平伏せり。 26 この女はシロフェニシアに生まれたる異邦人にして、わが娘より惡魔を追い払い給わんことを願い出でけるに、 27 イエズスのたまいけるは、まず子どもをして飽き足らしめよ。 子どものパンを取りて犬に投げ与うるは良きことにあらず、と。 28 女、答えて、主よ、しかり、されど小犬も

29 食卓の下に、子どもの落ちくずを食らうなり、と言ひしに、²⁹イエズスのたまいけるは、この言葉によりて行け、悪魔、汝の娘より出でたり、と。³⁰女、家に帰りて見れば、娘は床に横たわりて悪魔はすでに立ち去りたりき。

おしつんぽいやさる ³¹イエズスまたチロの地方を出で、シドンを経てデカボリ地方の中央をよぎり、ガリレアの湖に至り給いしに、³²人々おしにして耳しいなる者をイエズスに連れ來り、これに接手し給わんことを願いければ、³³イエズスこれを群衆のうちより呼び取りて、指を、そ³⁴の耳に入れ、つばきしてその舌に触れ、³⁴天を仰ぎて嘆じ、エフフェタ、とのたまえり、すなわち開けよの義なり。³⁵たちまちにして、その耳開け、舌のもつれ解けて、もの言うこと正しかりき。³⁶イエズスこれを人に語ることを彼らに戒め給いしかど、戒め給うほど人はますます言い広め、³⁷ますます感嘆して、よくこそ何ごともなし給いつれ、耳しいを聞こえしめ、おしを、も³⁷の言わしめ給えり、と言いいたり。

①イザヤ29・13 ②出エジプト記20・12 ③出エジプト記21・15 ④ラテン訳では貪欲。⁵あるいは、たれにも知られざらん。あるいは、たれをも知られざらん。

第三八章

再びパンをふやし給う（マテオ³²・³⁹15）

1 その時また群衆おびただしくして食すべきものあらざりしかば、イエズス弟子たちを呼び集めてのたまいけるは、²われ、この群衆をあわれむ。³それ、すでに三日を、われとともに過ごして今や食すべきものなし。³彼らを空腹にして家に帰らしめば、中には遠方より来れる人々あり、道にて倒るべし、と。⁴弟子たち答えるは、この荒野にて、たれか、いざこよりパンを得て彼らを飽かしめ得べき、と。⁵イエズス、汝ら、いく

6 つのパンをか持てる、と問い合わせに、七つ、と言いしかば、⁶イエズス命じて群衆を地にすわらせ、
 7 つのパンを取り、謝してこれを裂き、人々の前に供えしめんとて弟子たちに与え給いしかば、
 7 彼らこれを群衆の前に供えたり。⁷また少しの小魚こぎかなありけるを、イエズスこれをも祝し給い、命
 じて人々の前に供えしめ給いしかば、⁸人々食して飽き足り、残りのくず七しちかごを拾えり。⁹食
 せし者は、およそ四千人なりしが、イエズスさて彼らを去らしめ給えり。

10 天よりの印(マテオ16:1~4)^{*} ¹⁰かくて、ただちに弟子たちとともに舟に乗りて、ダルマヌタ地方に至
 11 り給いしに、¹¹ファリザイ人ら出でて論じかかり、イエズスを試みて天よりの印を求めければ、
 12 12 イエズス、心のうちに嘆じてのたまいけるは、現代の人は何ぞ印を求むるや、われ誠に汝らに
 13 告ぐ、現代の人、あに印を与えられんや、と。¹³やがて彼らを去らしめ、また舟に乗りて湖うみのか
 なたに至り給えり。

14 フアリザイ人のパン種(マテオ16:5~12)^{*} ¹⁴時に弟子たちパンを携うることを忘れて、船中ただ一つ
 15 のパンあるのみなりしが、¹⁵イエズス彼らに命じて、汝ら慎みてフアリザイ人のパン種とヘロ
 16 デのパン種とに用心せよ、とのたまいしかば、¹⁶彼ら、これ、われらがパンを持たざるゆえなら
 17 んとて案じ合いけるを、¹⁷イエズス知りてのたまいけるは、汝ら何ぞパンを持たざることを案ず
 18 るや、いまだ知らず悟らざるか、汝らの心なおめしいなるか、¹⁸目ありて見えず、耳ありて聞こ
 えざるか、また記憶せざるか。¹⁹すなわち、われ五つのパンを五千人に裂き与えし時、汝らくず
 20 の満ちたるかご幾ばくを取り收めしそ、と。彼ら、十二、と言いしに、²⁰また「のたまいけるは、」
 七つのパンを四千人に裂き与えし時、幾かごのくずを取り收めしそ、と、彼ら、七つ、と言いしか

ば、²¹イエズス、何ぞ、いまだ悟らざる、とのたまえり。

²¹めしいだんだんにいやさる ²²一行^{いつこう}ペッサイダに至りしに、人々一人のめしいをイエズスに連れ來りて、これに触れ給わんことを願いければ、²³イエズス、めしいの手を取りて、これを村は
²⁴ずれに導き、その目につけさせしして、これに接手し、見ゆるものありや、と問ひ給いしに、²⁴彼、
²⁵見はりて、われ人々の歩むを見るに木のごとくなり、と言えり。²⁵やがてまた、その目に接手し
²⁶給いしに、目ようやく開け、ついに回復して、すべてのもの明らかに見ゆるに至れり。²⁶イエズ
ス、彼をその家に帰らしめてのたまいけるは、おのが家に行け、村に入ることなく、たれにも告
ぐことなかれ、と。

第六項 イエズス弟子たちに、おのが受難を予期せしめ給う

²⁷ペトロの宣言（ルテオカ9:16-18:13）²⁷イエズス、弟子たちとともにフイリップのカイザリアの村
 村に出で行き給いしが、道すがら弟子たちに聞いて、人々われをたれとか言える、とのたまいし
 に、²⁸彼ら答えて、「ある人々は」洗者ヨハネ、ある人々はエリア、ある人々は予言者の一人の
 ごとしと言う、と言いしかば、²⁹イエズス彼らにのたまいけるは、さて汝らは、われをたれなり
 と言うか、と。ペトロ答えて、汝はキリストなり、と言ひけるを、³⁰イエズス、わがことをたれ
 にも告ぐことなかれ、と、きびしく戒め給えり。

³¹受難の予言（マルカ9:16-21）³¹また人の子^{*}が多くの苦しみを受け、長老^{*}、司祭長^{*}、律法學士^{*}

32 らに排斥せられ、ついに殺されて三日ののち復活すべきことを彼らに教え始め給いしが、32 その
 33 ことを公に語り給いければ、ペトロ彼を引きていさめ出でけるを、33 イエズス顧みて弟子たちを
 見まわし給い、ペトロを^{けんせき}譴責してのたまいけるは、サタン^{*}よ、退け、汝の味わえるは神のことには
 あらずして人のことなればなり、と。

34 信者は十字架をになうべし（ルテオ16・24
 ルカ9・23
 ルカ27
 ルカ28） 34 イエズス、群衆と弟子たちとを呼び集めて、
 これにのたまいけるは、人もし、われに従わんと欲せば、おのれを捨て、おのが十字架を取りて、
 われに従うべし。35 そは、おのが^{せいめい}²命を救わんと欲する人は、これを失い、われおよび福音のため
 捐せば何の益かあらん。36 人、全世界をもうくとも、もし、その生命を
 代において、われおよび、わが言葉を恥じたる人をば、人の子も、おのが父の光榮をもつて聖なる
 天使たちを従えて来らん時、これを恥ずべし、と。39 また彼らにのたまいけるは、われ誠に汝
 らに告ぐ、神の国が権威をもつて来るを見るまで死を味わわざるべき人々、ここに立てる者のうち
 にあり、と。

① ラテン訳では村に入らば。② 原文では魂とあって、靈魂、生命、自身、身体、財産などの意味をかねる言葉。この
 言葉をあやどって、今世、來世の生命のことと言わたるものであろう。

1 イエズスの変容（マテオ17・1～8） 1 六日ののちイエズス、ペトロ、ヤコボ、ヨハネの
 2 みを別に従えて高き山に導き給いしに、彼らの前にて御形変わり、2 衣服は輝きて真白なること
 3 雪のごとく、地上の布さらしのなし得ざるほどなりき。3 時にエリア、モイゼとともに彼らに現

4 われてイエズスと語りおりしが、4ペトロ答えてイエズスに言ひけるは、ラビ¹、よいかな、われらが、ここにおること。われら三つのいほりを作り、一つは汝のため、一つはモイゼのため、一つはエリアのためにせん、と。5けだし彼は、その言うところを知らざりき、そは、みないたく6恐れいたればなり。6かくて一群の雲、彼らを立ちおおい、声、雲のうちより来りていわく、こ7れぞ、わが最愛の子なる、これに聞け、と。7彼らただちに見まわしけるに、イエズスと、おのれらとのほか、また、たれをも見ざりき。

8 変容後の談話（マテオ¹⁷・9・¹³₁₇）8イエズス彼らが山をくだる時、人の子^{*}、死者のうちより復活する9までは、その見しことを人に語るな、と戒め給いしかば、9彼ら、これを守りしが、死者のうち10より復活するまでとは何ごとぞ、と論じ合ひたり。10かくてイエズスに聞いて、しからばエリア^{*}11先に来るべしと、ファリザイ人、律法學士^{*}らの言えるは何ぞや、と言ひければ、11答えてのたま12いけるは、エリア先に來りて万事を回復すべし、また人の子^{*}につきては多くの苦難を受け、かつ、13イエズス、弟子たちのもとに來り見給いしに、おびただしき群衆、彼らを囲み、律法學士^{*}14彼らと論じおりしが、14人民は、ただちにイエズスを見て、みな驚き恐れ、馳せ寄りて敬礼せり。15おしつんぼの惡魔つきいやさる（ルカ¹⁷・¹⁴₂₀・³⁷₄₃）15イエズス、律法學士^{*}らに向かい、何を論16じ合えるぞ、とのたまいしに、16群衆のうちより一人答えて言ひけるは、師よ、われおしなる悪^{あく}17鬼につかれたる、わが子を汝にもたらしたるが、17惡鬼につかるれば、いざこにもあれ投げ倒さ

18 れて、あわをふき、歯をくいしばり、五体こわばる。これを追い出ださんことを汝の弟子たちにこ
いたれどあたわざりき、と。¹⁸ イエズス彼らに答えてのたまいけるは、ああ信仰なき時代なるか
な、われ、いつまで汝らとともにおらんや、いつまで汝らを忍ばんや。そを、われに携えられ、
と。¹⁹ すなわち携え来りしが、彼、イエズスを見るや、ただちに悪鬼のためにけいれんを起こし、
地に倒されて、あわをふきつつ、伏し転びたり。²⁰ イエズスその父に向かい、彼にこのことの起
れるは、いつごろよりぞ、と問い合わせしに、²¹ 父言ひけるは、幼少の時よりなり、しかして悪鬼
これを殺さんと、しばしば火に水に投げ入れたり。汝もし、すべき様もあらば、われらをあわれ
みて助け給え、と。²² イエズスこれにのたまひけるは、汝もし信ずることを得ば、信する人には
何ごともあたわざるなし、と。²³ 子の父、たちまち涙とともに呼ばわりて言ひけるは、主よ、わ
れは信す、わが信仰を助け給え、と。²⁴ イエズス、群衆の馳せ集まるを見て、汚鬼を責め、おし
にして耳しいなる悪鬼よ、われ汝に命ず、この人より立ち去りて再び入ることなかれ、とのたま
いしに、²⁵ 悪鬼、叫びつつ彼をけいれんせしめて出で去れり。さて彼は死人のごとくになりしか
ば、死せりと言う人多かりしが、²⁶ イエズスその手を取りて起こし給いければ、彼、立ち上がり
り。

27 祈祷と断食との効能 ²⁷ イエズス、家に入り給いしに、弟子たち、ひそかに、われらが、これ
を追い出だすことあたわざりしは何ゆえぞ、と問い合わせしに、²⁸ イエズス彼らにのたまひけるは、
かかる類は祈祷と断食とによらでは、いかにしても追い出だすことあたわざるなり、と。
更に受難を予言し給う（ルテオカ9¹⁷・44²¹、⁴⁵₂₂）²⁹ かくて、ここを去りて一行ガリレアをよぎりしが、

30 イエズス、たれにも知られざらんことを欲し給い、31 弟子たちに教えて、人の子は人の手に売られ、これに殺され、殺されて三日目に復活すべし、とのたまいしかども、32 彼ら、その言葉を悟らず、また問うことをも、はばかりいたりき。

32 種々の教訓 32 彼らカファルナウムに至りて家におりしに、イエズス聞いて、汝ら道々何を論じたりしそ、とのたまえ巴、33 彼ら默然たりき、こは、おのれらのうちに最も大いなる者は、たれぞ、と道すがら相争いたればなり。

謙遜の必要（ルカ9：1～5）

34 イエズス坐して十二人を呼び、これにのたまひけるは、人もし第一の者たらんと欲せば一同のあととなり、一同の召使となるべし、と。35さて一人の幼子を取りて彼らの中に置き、これを抱きて彼らにのたまひけるは、36 たれにもあれ、わが名のために、かかる幼子の一人を受くる人は、われを受くる者なり、また、たれにもあれ、われを受くる人は、われを受くるにはあらずして、われを遣わし給いし者を受くるなり。

寛容の必要（ルカ9：49～50）

37 ヨハネ答えて言いけるは、師よ、われらに従わざる一人が、汝の名をもつて悪魔を追い払うを見たれば、われら、これを禁じたりき。38 イエズスのたまひけるは、禁ずることなけれ、そは、わが名をもつて奇跡を行ないながら、ただちに、われをそしり得る者あらざればなり。39 すなわち汝らに反せざる人は汝らのためにする者なり。40 汝らがキリストに属する者なればとて、わが名のために一杯の水を飲まする人あらば、われ誠に汝らに告ぐ、彼は、その報いを失わじ。41 また、われを信する、この小さき者の一人をつまずかする人は、ろばの引くうすを首にかけられて海に投げ入れらること、むしろ彼にとりてまされり。

つまずきの禍い（マテオ18・6～9）⁴²もし汝の手、汝をつまずかさば、これを切れ、かたわにて生命に入るは、両手ありて地獄の消えざる火に行くより汝にとりてまされり、⁴³かしこには、そのうじは死なず、火は消えざるなり。⁴⁴もし汝の足、汝をつまずかさば、これを切れ、片足にて永遠の生命に入るは、両足ありて消えざる火の地獄に投げ入れらるるより汝にとりてまされり、⁴⁵かしこには、そのうじは死なず、火は消えざるなり。⁴⁶もし汝の目、汝をつまずかさば、これをくじり去れ、片目にて神の国に入るは、両目ありて火の地獄に投げ入れらるるより汝にとりてまされり、⁴⁷かしこには、そのうじは死なず、火は消えざるなり。⁴⁸おのおの火をもって塩づけられ、犠牲は、おのおの塩をもって塩づけられん。⁴⁹塩は良きものなり、されど塩もしその味を失わば、何をもつてか、これに塩せんや。汝らの心に塩あれ、汝らの間に平和あれ、「とのたまえり」。

①師よ、の意。②マラキア3・23

第七項 イエズス、ペレア地方に留まり、ついにエル

ザレムにおもむき給う

1

1イエズスここを立ち出でてヨルダン〔川〕のかなたなるユデアの境に至り給いしに、群衆また、そのもとに集まりければ、例のごとくまた彼らを教えい給えり。

2

婚姻を解くべからず（マテオ19・3～9）²時にファリザイ人ら近づきてこれを試み、人その妻を出だすはよきか、と問い合わせしに、³イエズス答えて、モイゼ^{*}は汝らに何を命ぜしそ、とのたまいしかば、⁴彼ら言う、モイゼは離縁状を書きて妻を出だすことを許せり。⁵イエズス彼らに答えてのたま

5-4

4

8-7 6 いけるは、彼は汝らの心のかたくなるによりてこそ、かの捷を汝らに書き与えつれ。6 されど開闢の初めに神は人を男女に造り給えり、7 このゆえに人は父母を離れて、その妻に合^{がつ}し、8 両人一体となるべし。されば、すでに二人にあらずして一体なり。9 ゆえに神の合わせ給いしとこそ、人これを分かつべからず、と。10 弟子たち家において、また同じことにつきて問い合わせししかば、11 彼らにのたまひけるは、たれにても妻を出だして他にめとるは、これがの女^{おんな}に対して姦淫を行なうなり。12 また妻、その夫を捨てて他に嫁ぐは、これ姦淫を行なうなり、と。

幼子^{おさなこ}らを祝し給う

(ルマテオ18:19・カ18:15・13:15)

13

時にイエズスのこれに触れ給わんために、人々幼子^{おさなこ}ら

14 を差し出だしたるに、弟子たち、その差し出だす人を叱りければ、14 イエズスこれを見て憤り給い、彼らにのたまひけるは、幼子^{おさなこ}らの、われに来るを許せ、これを禁することなかれ、神の国は、15 かくのごとき人のためなればなり。15 われ誠に汝らに告ぐ、すべて幼子^{おさなこ}のごとくに神の国を受けざる人は、ついに、これに入らじ、と。16 かくて幼子^{おさなこ}らを抱き、握手して、これを祝い給えり。

青年の富者

(ルマテオ18:19・カ18:16・23:22)

17

イエズス、道に出で給いしに、ある人馳せ來り、その前にひ

18 ざまづきて、良き師よ、永遠の生命を得んには、われ何をなすべきか、と問ひければ、18 イエズ

19 スこれにのたまひけるは、何ぞ、われを良きと言うや、神一人のほかには良きものなし、19 汝は

20 捷を知れり、姦淫するなかれ、殺すなかれ、盜むなかれ、偽証するなかれ、害するなかれ、汝の父母^{ちちは}を敬え、とこれなり、と。20 彼、答えて、師よ、われ幼年より、ことごとくこれを守れり、

21 と言いしかば、21 イエズスこれに目を注ぎ、いつくしみてのたまひけるは、汝なお一つを欠けり、行きて持てる物を、ことごとく売り、これを貧者に施せ、しかば天において宝を得ん、しかし

22 て來りて、われに従え、と。22 彼この言葉に悲しみ憂いつつ去れり。そは多くの財産を持てる者なればなり。

23 富の危険（ルカ^{18:19-23}） 23 イエズス、見めぐらしつ弟子たちに、かたいかな、金を持ってる人の神の国に入ること、とのたまいければ、24 弟子たち、この言葉に驚きしかば、イエズスマた答えてのたまいけるは、25 小子よ、かたいかな、金を頼める人の神の国に入ること。25 富者が神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通るはやすし、と。26 彼ら、いよいよ怪しみて語り合ひけるは、しかば、たれか救わることを得ん、と。27 イエズス彼らに目を注ぎつつのたまいけるは、そは人においてあたわざるところなれども、神においては何ごともあたわざるところなし、と。

28 イエズスのために、いつさいき捨つる人の報酬（ルカ^{18:19-28}） 28 ペトロ、イエズスに向かいて、さて、われらは、いつさいきを捨てて汝に従いたり、と言ひ出でたるに、29 イエズス答えてのたまいけるは、われ誠に汝らに告ぐ、すべて、わがため、また福音のために、あるいは家、あるいは兄弟、あるいは姉妹、あるいは父、あるいは母、あるいは子ども、あるいは田畠を離るる人は、30 たれにてもあれ、百倍ほどを受けざるはなし。すなわち今この世にては家、兄弟、姉妹、母、子ども、田畠を迫害とともに「受け」、のちの世にては永遠の生命を受けざるはなし。31 ただし多く、先なる人はあとになり、あとなる人は先になるべし、と。

32 三たび受難を予言し給う（ルカ^{18:20-32}） 32 エルザレムにのぼる途中、イエズス、弟子たちに先立ち給うを、彼ら驚きかつ恐れつつ従いおりしに、イエズス再び十二人を近づけて、おの

33 れに起らるべきことを語り出で給いけるは、33 見よ、われらエルザレムにのぼる。かくて人の子^{*}
 34 は司祭長、律法學士、長老^{*}らに売られ、彼らは、これを死罪に処し、異邦人に渡し、34 かつ、こ
 れをなぶり、これにつばきし、これをむち打ちて殺さん、しかして三日目に復活すべし、と。

35 ゼベデオの子らの願い（マテオ²⁰・²⁸）35 時にゼベデオの子ヤコボとヨハネとイエズスに近づきて
 言いけるは、師よ、望むらくは、われらの願うところを何ごとにもあれ、われらになし給わんこ
 とを、と。36 イエズス、わが汝らに何をなさんことを願うぞ、とのたまいければ、37 彼ら、汝の
 光栄のうちに一人はその右、一人はその左に坐することを、われらに得させ給え、と言いしに、
 38 イエズスのたまいけるは、汝らは願うところを知らず。汝ら、わが飲む杯²を飲み、わが洗せら
 るる洗礼³にて洗せられ得るか、と。39 彼ら、われらは得、と言ひしに、イエズスのたまいけるは、
 40 汝ら實に、わが飲む杯を飲まん、また、わが洗せらるる洗礼にて洗せられん、40 されど、わが右
 あるいは左に坐するは、わが汝らに得さすべきことにあらず、待ち設けられたる人々に得さすべ
 きなり、と。41 十人の者これを聞きて、大いにヤコボとヨハネとを憤り始めければ、42 イエズス
 彼らを呼びてのたまいけるは、異邦人^{*}をつかさどると見ゆる人が、これに主となり、また、その君
 たる人が、権をその上にふるうは汝らの知れるところなり。43 されど汝らのうちににおいてはしか
 らず、かえつて、たれにもあれ、大いならんと欲する者は汝らの召使となり、44 たれにもあれ、
 汝らのうちに第一の者たらんと欲する者は一同のしもべとなるべし。45 すなわち人の子^{*}の来れる
 も仕えらるるためにあらず。かえつて仕えんため、かつ衆人の贖い^{あがな}として生命^{いのち}を与えためな
 り、と。

46 エリコのめじいいやさる（ル^{マテオ}_{カ1820}・³⁵₃₄） 46 かくて、みなエリコに至りしが、イエズス、弟子たちと、おびただしき群衆を伴いてエリコを出で給う時、チメオの子なるめしいバルチメオ、道ばたに坐して施しをこいおりしに、47 これナザレトのイエズスなりと聞くや叫び出でて、ダヴィドの子イエズスよ、われをあわれみ給え、と言ひければ、48 多くの人、彼を叱りて黙せしめんとすれども、彼ますます激しく、ダヴィドの子よ、われをあわれみ給え、と呼ばわりいたり。49 イエズス立ち留まりて、彼を呼ぶことを命じ給いしかば、人々めしいを呼びて、心安かれ、立て、汝を召し給うぞ、と言うや、50 めしい上着を投げ捨て、おどりあがりて御もとに至りしが、51 エズス答えて、われに何をせられんことを欲するぞ、とのたまいしに、めしいは、ラッボニ⁵、わが目の見えることを、と言えり。52 イエズスこれに向かいて、行け、汝の信仰、汝を救えり、とのたまいしかば、彼たちまち見ることを得て、途中までイエズスに従い行けり。

①ペレア地方。②困難をなめることの形容。③血を流すことの形容。④他の使徒。⑤わが師よ、の意。

第二編 イエズスの最後の週間

第一項 イエズス、エルザレムにて歓迎せられ給う



エルザレムの歓迎（マテオ²¹₄₄、ヨハネ¹¹₁₂、ルカ¹⁹₁₉） 1 一行^{いっこう}かんらん山のもとにてエルザレムとベツファゼとベタニアとに近づける時、イエズス二人の弟子を遣わし給うとて、2 これにの

たまいけるは、向かいの村に行け、さて、そこに入らば、ただちに、いまだ人の乗らざる小ろばのつながれたるに会わん、そを解きて引き来れ。3もし人ありて何をなすかと言わば、主これを要す、と言え、しかば、ただちにそをここに遣わさん、と。4弟子たち行きて、門前の辻ツブに小ろばの外につながれたるに会いて、これを解きけるに、5そこに立てる人々のうちに、汝ら小ろばを解きて何とかする、と言う者ありければ、6弟子たちイエズスの命じ給いしごとく言ひしに、人々これを許せり。7かくて小ろばをイエズスのもとに引き來り、おのが衣服を、その上にかけしかば、イエズスこれに乗り給えり。8多くの人おのが衣服を道に敷き、ある人々は木より枝を切り落として道に敷きたりしが、9先に立ち、あとに従う人々呼ばわりて、ホザンナ¹、10主の名によりて来れる者は祝せられ給え、われらの父ダヴィード^{*}の来る國は祝せられよ、いと高き所にホザンナ、と言ひいたり。

第二項 イエズス、審判權しんばんけんを示し給う

いちじくの木、呪わる(マテオ¹⁸、ヨハ¹⁹21) 11イエズス、エルザレムに入り、「神」殿に至りて、あまねく見まわし給いしに、時すでに夕暮なりしかば、十二人とともにペタニアに出で給えり。12明くる日、一同ペタニアを出する時、イエズス飢え給いしが、13はるかに、葉あるいはいちじくの木を見て、これに何をか見出だすこともやと、そこに至り給いしに、葉のほかに何をも見出だし給わざりき。そはいちじくの時にあらざればなり。14イエズスこれにもの言ひて、今よりのち、いつも

でも汝の実を食らう人あらざれ、とのたまいしを弟子たち聞きたりき。

殿内の商人、追い出ださる（ルカ19:12-14） 15一同、エルザレムに至り、イエズス「神」殿に入り給いて殿内に売り買ひする人々を追い出だし始め、両替屋の机と鳩売る人々の腰かけとを倒し給い、16器を携えて「神」殿を通ることを何人にも許し給わず、17彼らに教えてのたまいけるは、書きしるして「わが家は万民に祈りの家となえられん³」とあるにあらずや、しかるに汝ら、これを強盗の巣窟となせり、と。18司祭長^{*}、律法學士^{*}ら、これを聞き、いかにしてかイエズスを滅ぼさんと相計りいたり、そは群衆こぞりて、その教えを感嘆するによりて、彼を恐れたればなり。19夕暮にはイエズス、町より出で給いしが、20朝、弟子たち通りかかりて、かのいちじくの木の根より枯れたるを見しかば、21ペトロ思い出だして、ラビ⁴、見給え、呪い給いしいちじくの木枯れたり、と言ひしに、22イエズス答えてのたまいけるは、神を信仰せよ、23われ誠に汝らに告ぐ、たれにてもあれ、この山に向かい、汝、抜けて海に投^{ハシマ}ぜよ、と言ひて、その心にたじろがず、わが言うところは何にてもなるべしと信せば、そのこと必ずならん。24ゆえに、われ汝らに告ぐ、汝ら何ごとも祈りて求むれば、ことごとく得べしと信せよ、さらば、そのこと必ず汝らにならん。25また祈らんとて立つ時、人に對して恨みあらば、これを許せ、これ天にまします汝らの父も汝らの罪を許し給わんためなり。26汝ら、もし許さずば、天にまします汝らの父も汝らの罪を許し給わじ、と。

イエズスの權の原因（ルカ20:1-8） 27一同、再びエルザレムに至りしが、イエズス「神」殿の内を歩み給う時、司祭長^{*}、律法學士^{*}、長老ら近づきて、28言ひけるは、汝、何の權をもって

29 これらのこととなすぞ、また、これらのこととなすべく、たれか、この権を汝に授けしそ。29
 エズス答えてのたまいけるは、われも一言、汝らに問わん、われに答えよ、さらば、われ何の権
 30 をもつて、これらのこととなすかを告げん。30 ヨハネの洗礼は天よりせしか、人よりせしか、わ
 31 れに答えよ、と。31 彼ら心におもんばかりけるは、天よりと言わんか、さらば何ぞ彼を信ぜざり
 しと言われん、32 人よりと言わんか、人民に、はばかるところあり、と、そは、みなヨハネを真
 33 に予言者と認めたればなり。33 かくてイエズスに答えて、われらこれを知らず、と言いしかば、
 イエズス答えて、われも何の権をもつて、このことどもをなすかを汝らに告げず、とのたまえり。

① マテオ21・9を見よ。② 原文には答えてとある。③ イザヤ56・7、エレミア7・11 ④ 師よ、の意。

第十一章 ぶどう畠の小作人のたとえ（ルカ20:1-18）

1 イエズス、たとえをもつて彼らに語り出で給いけるは、ある人、ぶどう畠を作りて垣をめぐらし、酒ぶねを掘り、物見台を設け、
 2 これを小作人に貸して遠方へ旅立ちしが、2季節に至り、小作人よりぶどう畠の実を受け取らし
 3 めんとて一人のしもべを彼らに遣わししに、3小作人ら、これを捕えて打ち、空手にて追い返せ
 4 り。4再び他のしもべを遣わししに、彼らまた、その頭を傷つけ、大いにこれをはずかしめたり、
 5 5更に他のしもべを遣わししに、彼ら、これをも殺し、なお、その他数人の「使」をも、あるいは
 6 は打ち、あるいは殺せり。6ここに、なお一人の最愛の子ありければ、彼ら、わが子をば敬うな
 7 らんとて、最後にこれをも遣わししに、7小作人ら語り合いけるは、これ相続人なり、いざ来れ
 8 かし、彼を殺さん、しかば家督かとくはわれらのものとなるべし、と。8すなわち捕えて、これを殺
 9 し、ぶどう畠の外に投げうてり。9されば、ぶどう畠の主、いかにこれを処分せんか。彼は、ま

10 さに來りて小作人らを打ち滅ぼし、ぶどう畠を他人に貸し与うべし。10 汝ら、いまだこの〔聖〕
11 書を読まさるか、すなわち「家を建つる人々の捨てし石は、隅の親石とせられたり。11 こは主の
手になされしことにて、われらの目には不思議なり¹」とあるなり、と。

12 司祭長らの憤懣（^{あんまん}_{マテオ46・21・45、ルカ20・19}） 12 司祭長^{*}、律法學士^{*}らは、イエズスが、おのれらをさして

このたとえを語り給いしことを悟りたれば、これを捕えんと計りたりしも群衆を恐れたり。

13 司祭長^{*}、律法學士^{*}

14 セザルのものはセザルに返すべし（^{マテオ22・20・26}_{ルカ22・15・22}）

15 カくて、ついに彼をおきて去りしが、

16 セザルには税を納むべきか、または、これを知る、そは人の面を見ず、真理によりて神の道を教え給えばなり。

17 セザルには税を納めざるべきか、と。15 イエズス彼らの狡猾を知りて、

18 復活なしと主張せるサドカイ人ら、イエズスのも

19 とに至り、聞いて言ひけるは、19 師よ、モイゼの、われらに書き残ししころによれば、もし人

の兄弟、死して妻をあとに残し、子を残さざる時は、その兄弟、彼が妻をめとりて兄弟のために

20 子をあぐべしとあり。20 しかるに兄弟七人ありて、兄、妻をめとり子を残さずして死し、21 その

21-20 18 復活につきてのご答弁（^{マテオ22・27・33}_{ルカ20・27・40}） 18 復活なしと主張せるサドカイ人ら、イエズスのも
19 19 とに至り、聞いて言ひけるは、19 師よ、モイゼの、われらに書き残ししころによれば、もし人
の兄弟、死して妻をあとに残し、子を残さざる時は、その兄弟、彼が妻をめとりて兄弟のために
返せ、とのたまいしかば、彼ら大いにイエズスを感嘆したり。

20 20 21-20 21 22 22 復活につきてのご答弁（^{マテオ22・27・33}_{ルカ20・27・40}） 18 復活なしと主張せるサドカイ人ら、イエズスのも
19 19 とに至り、聞いて言ひけるは、19 師よ、モイゼの、われらに書き残ししころによれば、もし人
の兄弟、死して妻をあとに残し、子を残さざる時は、その兄弟、彼が妻をめとりて兄弟のために
返せ、とのたまいしかば、彼ら大いにイエズスを感嘆したり。

22 次の者これをめとりて、また子を残さずして死し、第三の者もまた、かくのごとくにして、²²七
 23 人同じように、これをめとりしかど子を残さず、最後に女もまた死せり。²³かくて復活の時、彼
 24 ら復活せば、かの女は、たれの妻となるべきか、そは七人みなこれをめとりたればなり、と。²⁴
 イエズス答えてのたまいけるは、汝らは聖書をも神の能力をも知らざるがゆえに誤れるにあらず
 や。²⁵けだし死者のうちより復活したらん時には、めどらず嫁がず天における天使たちのごとし。
 26 汝ら死者の復活することにつきては、モイゼの書中、茨の編⁵に、神が彼にのたまいしところを
 読まざりしか、すなわち、のたまえらく「われはアブラハムの神、イザアクの神、ヤコブの神な
 27 り」⁶と、²⁷死者の神にはあらず、生者の神にてまします。されば汝ら大いに誤れり、と。

28 律法中、最大の掟（マテオ³⁴・⁴⁰22）²⁸一人の律法學士^{*}は、サドカイ人らの論じ合えるを聞き、イエ
 29 ズスのよく彼らに答え給いしを見てこれに近づき、すべての掟のうち第一なるものはいざれぞ、
 と問いしに、²⁹イエズス答えてのたまいけるは、すべての掟のうち第一なるものは、すなわち、
 「イスラエルよ聞け。汝の神たる主は唯一^{ゆいりゅう}の神なり。³⁰汝の心をつくし、魂をつくし、意をつく
 し、能力をつくして、汝の神たる主を愛すべし」と、これ第一の掟なり。³¹第二もこれに同じく
 「汝の近き者を、おのれのごとく愛すべし」と、これなり。これらより大いなる掟は他にあるこ
 となしと。³²律法學士^{*}答へるは、よし、師よ、汝ののたまえるところは誠なり。げに神は唯一
 にして、彼のほかに他の「神」なし。³³また心をつくし、知恵をつくし、魂をつくし、力をつく
 して、これを愛すべし、また近き者を、おのれのごとく愛するは、すべての燔祭^{はんさい}および犠牲^{ぎせい}にま
 されり、と。³⁴イエズス、彼が賢く答えしを見て、汝は神の国に遠からず、とのたまいしが、こ

ののち、あえてイエズスに問う者なかりき。

キリストはダヴィードの子なること(ルマテオ²⁰²²・⁴¹₄₁・⁴⁴₄₆) 35 イエズス「神」殿において教えつつい
給いし時、答えてのたまいけるは、律法學士^{*}らは、いかんぞキリストをダヴィードの子なりと言う
や。36 けだしダヴィード、聖靈によりて自らいわく、「主、わが主にのたまえらく、われ汝の敵を
汝の足台となすまで、わが右に坐せよ」と。⁹ 37 かくダヴィード自らキリストを主となうるに、こ
れいかにして、その子ならんや、と。おびただしき群衆、喜びてこれを聞けり。

律法學士らに用心すべし(ルカ²⁰²³・¹₁・⁴⁵₄₇³⁹) 38 イエズス、教えを説きて人々にのたまいけるは、
律法學士^{*}らに用心せよ。彼らは長き衣¹⁰を着歩くこと、巷¹¹にて敬礼せらること、³⁹会堂にて上座
を占むること、宴席にて上席につくことを好み、⁴⁰長き祈りにかこつけて、寡婦¹²らの家を食いつ
くすなり。彼らは、ひとしお長き審判を受くべし、と。

寡婦のさいせん(ルカ²¹・¹₄) 41 イエズス、さいせん箱の向かいに坐して、群衆のぜにを投げ入
るる様¹³を眺めい給えるに、富者の多くは多分に投げ入れたりしが、⁴²一人の貧しき寡婦¹⁴來りて、
二ミヌタ、すなわち三りんばかりを入れしかば、⁴³イエズス、弟子たちを呼び集めてのたまいけ
るは、われ誠に汝らに告ぐ、この貧しき寡婦¹⁵は、さいせん箱に投げ入れたるすべての人よりも多
く入れたり。⁴⁴ そは、すべての人は、その余れるうちより入れしに、この女は、その乏しきうち
より、すべて持てる物、おのが暮しの代をことごとく入れたればなり、と。

① 詩編 117・23 ② ローマ皇帝。③ およそ三十せんに当たる銀貨。④ 申命記 25・5 ⑤ 書の一一部分を示す。⑥ 出エジ
プト記 3・6 ⑦ 申命記 6・4、5 ⑧ レビ記 19・18 ⑨ 詩編 109・1 ⑩ 原文にはユドランテスとあって、およそ

一せん二りんに当たるアス銅貨の四分の一である。

見給え、この石はいかに、この構造はいかに、と言いしかば、²イエズス答えてのたまいけるは、

このいっさいの大建築を見るか、一つの石もくずれずして石の上に残されじ、と。

談話の機会（ルカ21:1~2） 1イエズス「神」殿を出で給うに、弟子の一人、師よ、

2見給え、この石はいかに、この構造はいかに、と言いしかば、²イエズス答えてのたまいけるは、
このいっさいの大建築を見るか、一つの石もくずれずして石の上に残されじ、と。

予言（ルカ21:3~35） 3イエズス、かんらん山^{*}において「神」殿に向かいて坐し給えるに、

4ペトロ、ヤコボ、ヨハネ、アンデレア、殊にこれに問いかけるは、⁴ことどもは、いつあるべきぞ。しかして事のみな果たされそめん時に、いかなる印あるべきぞ、われらに告げ給え、と。

5イエズス答えて彼らにのたまいけるは、汝ら人にまどわされじと注意せよ。⁶そは多くの人、

6-5 7わが名を冒し來りて、われはキリストなり、と言いて多くの人をまどわすべければなり。⁷汝ら

8 戦および戦の噂^{うわき}を聞きて恐るるなかれ、このことどもは、けだしあるべし、されど終わりはいま

9 だ至らざるなり。⁸すなわち民は民に、国は国に立ち逆らい、地震、飢饉^{ききん}、所々にあらん、これ

10 らは苦しみの初めなり。⁹汝ら自ら省みよ、けだし人々、汝らを衆議所に渡し、汝らは諸会堂に

11 てむち打たれ、わがために証拠として総督^{そうとく}と王侯^{おうこう}との前に立たんとす。¹⁰さて福音は、まず万民に述べ伝えらるべし。¹¹人々、汝らを引きて渡さん時、何を言わんかとあらかじめ案ずることな

かれ。ただその時、汝らに賜わらんことを言え、そは言う者は汝らにあらずして聖靈なればなり。

第三項 エルザレムの滅亡などの予言

第三章

談話の機会（ルカ21:1~2） 1イエズス「神」殿を出で給うに、弟子の一人、師よ、

2見給え、この石はいかに、この構造はいかに、と言いしかば、²イエズス答えてのたまいけるは、

このいっさいの大建築を見るか、一つの石もくずれずして石の上に残されじ、と。

予言（ルカ21:3~35） 3イエズス、かんらん山^{*}において「神」殿に向かいて坐し給えるに、

4ペトロ、ヤコボ、ヨハネ、アンデレア、殊にこれに問いかけるは、⁴ことどもは、いつあるべきぞ。しかして事のみな果たされそめん時に、いかなる印あるべきぞ、われらに告げ給え、と。

5イエズス答えて彼らにのたまいけるは、汝ら人にまどわされじと注意せよ。⁶そは多くの人、

6-5 7わが名を冒し來りて、われはキリストなり、と言いて多くの人をまどわすべければなり。⁷汝ら

8 戦および戦の噂^{うわき}を聞きて恐るるなかれ、このことどもは、けだしあるべし、されど終わりはいま

9 だ至らざるなり。⁸すなわち民は民に、国は国に立ち逆らい、地震、飢饉^{ききん}、所々にあらん、これ

10 らは苦しみの初めなり。⁹汝ら自ら省みよ、けだし人々、汝らを衆議所に渡し、汝らは諸会堂に

11 てむち打たれ、わがために証拠として総督^{そうとく}と王侯^{おうこう}との前に立たんとす。¹⁰さて福音は、まず万民に述べ伝えらるべし。¹¹人々、汝らを引きて渡さん時、何を言わんかとあらかじめ案ずることな

かれ。ただその時、汝らに賜わらんことを言え、そは言う者は汝らにあらずして聖靈なればなり。

12 兄弟は兄弟を、父は子を死に渡し、子どもは両親に立ち逆らい、かつこれを殺さん。 13 汝ら、わが名のために、すべての人に憎まれん。されど終わりまで堪え忍ぶ人は救わるべし。 14 汝ら、アにある人々は山にのがるべし、 15 屋根の上にある人は家の内にくだり、家より何ものをか取り出ださんとて内に入るべからず。 16 煙におる人は、その上着を取らんとて帰るべからず。 17 その日にあたりて懷胎せる人、乳を飲ます人は禍いなるかな。 18 このことの冬に起こらざらんことを祈れ、 19 そは、その日に際して、神が〔万物を〕創造し給いし開闢^{かいびく}の初めより今に至るまで、かつてあらず、のちにもまたあらざらんほどの悩みあるべければなり。 20 主もし、その日を縮め給わズば、救わるる人なからん。されど、殊に選み給いし選まれたる人々のために、その日を縮め給えり。 21 その時、汝らに向かいて、見よ、キリストここにあり、見よ、かしこにあり、と言う者ありとも、これを信ずることなかれ。 22 そは偽キリスト、偽予言者ら起こりて、あたうべくば、選まれたる人々をさえまどわさんとて、大いなる印と不思議なる業^{わざ}とをなすべければなり。 23 されば汝ら省みよ。われ、あらかじめ、いっさいを汝らに告げたるぞ。 24 その時、かかる患難ののち日暗み、月その光を与えず、 25 空の星落ち、天における能力動搖せん、 26 その時、人々は人の子^{*}が大いなる権力と栄光とをもつて雲に乗り来るを見ん。 27 時に彼、その使たちを遣わし、地の果^はより天の果^は¹まで、四方より、その選まれたる人をかり集めしめん。 28 汝ら、いちじくの木よりたとえを学べ、その枝すでに柔らきて葉を生すれば、夏の近きを知る。 29 かくのごとく、このことどものなるを見ば、汝らまた、その近くして門に至れるを知れ。 30 われ誠に汝らに告ぐ、このこと

31 どもの、みななるまでは、現代は過ぎざらん。31 天地は過ぎん、されど、わが言葉は過ぎざるべし。

32 謹戒すべし（ルカ^{マテオ}_{21:24}・³⁴₃₆・³⁶₅₀） 32 その日その時をば、天における天使たちも、子も、何人も知らず、ただ父のみ「これを知り給う」。33 汝ら注意し、謹戒し、かつ祈祷せよ、けだし時のいつなるかを知らざればなり。34 そは、あたかも人その家を去りて遠方に旅立つにあたり、しもべらに命じて、おののおのその務めを分からち當て、門番には謹戒することを命じたるがごとし。35 されば汝ら謹戒せよ、家の主の来るはいつなるべきか、夕暮なるか、夜中なるか、また鶏鳴くころなるか、朝なるか、これを知らざればなり。36 おそらくは彼にわかに来りて汝らの寝ねたるを見ん。37 37 われ汝らに言うところをすべての人々に言う、謹戒せよ、「とのたまえり」。

① 原文には四風（しふう）。

第四項 イエズスの受難の予備



1 司祭長らの計り（ルカ^{マテオ}_{22:26}・¹₃・²₅）

日のちにあるべければ、司祭長、律法學士ら、いかにたばかりてか、イエズスを捕え、かつ殺すべき、と相計りたりしが、2 「祝い日には、これをなすべからず、おそらくは人民のうちに騒動起ころん」と言ひいたり。

3 イエズス、香油を注がれ給う（ヨハネ^{マテオ}_{12:26}・¹₆・¹¹₁₃）

3 イエズス、ペタニアにありて、らい病者シ

モンの家にて食卓につき給えるに、一人の女、価高き穂ナルドの香油を盛りたる器を持ちて來り、
 4 その器を割りて彼が頭こうべに注ぎしかば、4 ある人々、心に憤りて、何のために香油を、かくは費や
 5 したるぞ、5 この香油は三百デナリオ以上に売りて、貧者に施し得たりしものを、と書いて、身
 6 震いしつつこの女を怒りたるに、6 イエズスのたまいけるは、この女をさしおけ、何ぞこれをわ
 7 ずらわすや。彼は、われに善業をなししなり。7 そは貧者は常に汝らのうちにあれば、隨時にこ
 8 れを恵むことを得べけれど、われは常に汝らのうちにおらざればなり。8 この女は、その力のか
 9 ぎりをなして葬りのために、あらかじめわが身に油を注ぎたるなり。9 われ誠に汝らに告ぐ、全
 世界いづくにもあれ、福音の述べ伝えられん所には、この女のなししことも、その記念として語
 らるべし、と。

ユダの裏切（ルカ22:6～16） 10 時に十二人の一人なるイスカリオテのユダ、イエズスを司
 11 祭長*らに売らんとて彼らのもとに至りしが、11 彼ら、これを聞きて喜び、金かなを与えると約せしか
 ば、ユダ、いかにしておりよくイエズスを渡さんかと、たくみいたり。

晩さんの準備（ルカ22:7～13） 12 かくて種なしパンの祝いの初めの日、すなわち過ぎ越し「の
 小羊」をほふる日、弟子たちイエズスに向かい、われらがいすことに行きて過ぎ越しの食を汝のため
 に備えんことを欲し給うか、といしかば、13 イエズス、二人の弟子を遣わすとて、これにの
 たまいけるは、町に行け、しからば水がめを肩にせる人、汝らに会わん、そのあとに従いて行き、
 14 いざこにもあれ、彼が入る家の主あるじに向かいて言え、師いわく、わが弟子とともに過ぎ越しを食
 すべき席はいざとなるぞ、と。15 さらば彼すでに整えたる大いなる高間たかまを汝らに示さん、そこに

16 て、われらのために備えよ、と。16 弟子ら出でて町に至りしに、会うところイエズスののたま
しごとなりしかば、食事の準備をなせり。

17 律法的晩さん(マテオ¹⁴、ヨハネ²¹、ルカ²⁶、マテオ²³、ヨハネ²⁰、マテオ²⁵、ヨハネ²²)

17 夕暮に及びて、イエズス、十二人とともに至り、
18一同席につきて食しつつあるに、イエズスのたまいけるは、われ誠に汝らに告ぐ、汝らのうち
一人、われとともに食する者、われを渡さんとす、と。19 彼ら憂いて、おののおの、われなるか、
と言い出でしに、20 イエズス彼らにのたまいけるは、十二人の一人にして、われとともに手を鉢はち
につくる者、すなわちこれなり。21 そもそも人の子は、おのれにつきて書きしるされたることく
逝くといえども、人の子を渡す者は禍いなるかな、この人、生まれざりしならば、むしろ、その
身にとりて、よかりしものを、と。

22 聖体の制定(マルコ¹⁵、ルカ²⁶、マテオ²²、ヨハネ²⁹)

22 弟子たちの食するに、イエズス、パンを取り、祝してこれを
23 裂き、彼らに与えてのたまいけるは、取れよ汝ら、これ、わが体なり、と。23 また杯を取り、謝
して彼らに与え給い、みなこれをもつて飲みしが、24 イエズス彼らにのたまいけるは、これ衆人
のために流さるべき新約のわが血なり。25 われ誠に汝らに告ぐ、神の国にて汝らとともに新たなる
ものを飲まん日までは、われ今よりも、このぶどうの汁を飲まじ、と。

26 二つの予言(マテオ²⁶、ヨハネ³⁰、ルカ²²)

26 かくて贊美歌を唱え終わり、彼らかんらん山*⁴に出で
行きしが、27 イエズスのたまいけるは、汝らみな今宵こよわれにつきてつまずかん、そは書きしるし
て「われ牧者を擊たん、かくて羊、散らされん」とあればなり、28 されど、われ復活したるのち、
汝らに先立ちてガリレアに行かん、と。29 ペトロ、イエズスに向かい、たとい、みな汝につきて

つまずくとも、われはしからず、と言えるを、³⁰イエズスのたまいけるは、われ誠に汝に告ぐ。
 汝、今日今宵鷄二たび鳴く前に、必ず三たびわれを否まん、と。³¹彼なお言い張りて、たとい汝
 とともに死すともわれは汝を否まじ、と言ひければ、一同もまた等しく言ひいたり。

第五項 イエズスのご受難

⁴¹ ⁴⁰⁻³⁹ ³⁸ ゲッセマニにおける心痛（²²マテオ²⁶、³⁹マテオ²⁶、³⁶ヨハネ¹⁸、⁴⁶ルカ¹⁸、¹） ³²彼らゲッセマニと言える田舎家に至るや、
 イエズス、弟子たちに向かい、わが祈る間、汝らここに坐せよ、とのたまいて、³³ペトロとヤコ
 ボとヨハネとを従え行き給いしに、恐れ、かつ忍びがたくなりて、³⁴彼らにのたまいけるは、わ
 が魂、死ぬばかりに憂う。汝らここに留まりて目覚めてあれ、と。³⁵かくて少しく進みて地に平
 伏し、かなうべくば、おのれより、この時の去らんことを祈り給いしが、³⁶また、のたまいける
 は、アバ、父よ、汝は、すべてあたわざることなし、この杯を、われより去らしめ給え、されど、
 わが思うところのどとくにはあらで、おぼしめすままなれかし、と。³⁷かくて來り給いて、弟子
 たちの眠れるを見、ペトロにのたまいけるは、シモン、汝、眠れるか、われとともに一時間を目
 覚めおるあたわざりしか。³⁸汝ら誘惑に入らざらんために目覚めて祈れ。精神は、はやれども肉
 身は弱し、と。³⁹また行きて、同じ言葉をもつて祈り給いしが、⁴⁰また帰りて弟子たちの眠れる
 を見給えり。けだし彼らの目疲れて、イエズスに、いかに答うべきかを知らざりしなり。⁴¹三た
 び目に來りて彼らにのたまいけるは、今は、はや眠りて休め、事足れり、時は来れり、今や人の

子^{*}、罪人^{つみびと}の手に渡されんとす、⁴²起きよ、われら行かん、すはわれを渡さんとする者近づけり、と。
イエズス、捕われ給う（マテオ²⁶・ヨハネ¹⁸）⁴³ イエズスなお語り給うに、十二人の一人
 なるイスカリオテのユダ來り、司祭長、律法學士、長老^らのもとより来れるおびただしき群衆、
 剣、棒などを持ちて、これに伴えり。⁴⁴ イエズスを売りたる者、かつて彼らに合図を与えて、わ
 が接吻するところの人、それなり、捕えて、しかと引き行け、と言いたりしが、⁴⁵ 来りて、ただ
 ちにイエズスに近づき、ラビ⁸、安かれ、と書いて接吻せしかば、⁴⁶ 彼ら、イエズスに手をかけて、
 これを捕えたり。⁴⁷ かたわらに立てる者の一人、剣を抜き、大司祭のしもべを擊ちて、その耳を
 切り落としげ、⁴⁸ イエズス答えて群衆にのたまひけるは、汝ら強盜に「向かう」ごとく、剣と
 棒とを持ちて、われを捕えに出で來りしか、⁴⁹ われ日々に「神」殿において、汝らのうちにありて
 教えたりしに、汝ら、われを捕えざりき。ただし、これ「聖」書の成就せんためなり、と。⁵⁰ 時
 に弟子たち彼をおきて、みな逃げ去れり。⁵¹ 一人の少年、肌に広布をまといたるままイエズスに
 従いたりしが、人々これをも捕えしかば、⁵² 広布を投げ捨て、裸^{はだか}にてのがれ去れり。⁵³ かくて彼
 ら、イエズスを大司祭のもとに引き行きしに、司祭、長老^{*}、律法學士ら、みな、ここに集まりし
 が、⁵⁴ ペトロはるかにイエズスに従いて、大司祭の中庭までも入り込み、しもべらとともに坐し
 て火にあたりいたり。

イエズス、衆議所に出廷し給う（マテオ²⁶・ヨハネ¹⁸）⁵⁵ 大司祭ら、および議会ござりて
 イエズスを死に渡さんとし、これが証拠を求むれども得ざりき。⁵⁶ けだし、あまたの人、彼に対
 して偽証すれども、その証拠一致せず、⁵⁷ また、ある者ども立ちて彼に對して偽証し、⁵⁸ 彼は手

にて作れるこの「神」殿をこぼち、三日のうちに別に手にて作らざるもの建てんと言えるを、
 われら聞けり、と言いしも、⁵⁹彼らの証言一致せざりき。⁶⁰大司祭、真中に立ち上がり、イエズ
 スに問いて、彼らよりとがめらるるところに對して汝は何ごとも答へざるか、と言いたれど、
⁶¹イエズス、默然として一言も答へ給わず、大司祭再び問いて、汝は祝すべき神の子キリストな
 るか、と言いしかば、⁶²イエズスこれにのたまひけるは、しかり、しかして汝ら、人の子^{*}が全能
 にまします神の右に坐して、空の雲に乗り来るを見ん、と。⁶³ここにおいて大司祭、おのが衣服
 を裂き、われら何ぞ、なお証人を求めんや。⁶⁴汝らは冒瀆の言葉を聞けり。これを、いかに思え
 るぞ、と言ひしに、一同、イエズスの罪、死に当たると定めたり。

⁶⁵イエズス嘲弄^{ちようろう}せられ給う ⁶⁵かくて、ある者らはイエズスにつばきし、御顔をおおい、予言せ
 よ、と言いて、こぶしにて打ちなどし始め、しもべらは平手にて、これを打ちいたり。
 ペトロ三たびイエズスを否む（マテオ²⁶・ヨハネ¹⁸・ルカ²²・⁶⁹～⁷⁵、¹⁵～¹⁸、²⁵～²⁷）⁶⁶さてペトロは、下なる庭におり
 しが、大司祭の下女の一人來りて、⁶⁷ペトロの火にあたれるを見しかば、これを見つめて、汝も
 ナザレトのイエズスとともにありき、と言いたるに、⁶⁸彼、否みて、われは知らず、汝の言うと
 ころを解せず、と言いしが、やがて庭の前に出で行きしに鶏鳴けり。⁶⁹また、ある下女、彼を見
 て、かたわらに立てる人々に向かい、この人は彼らの徒輩^{ともがら}なり、と言い出でけるを、⁷⁰ペトロま
 た否めり。しばらくありて、かたわらに立てる人々またペトロに向かい、汝は、げに彼らの徒輩^{ともがら}
 なり、等しくガリレア人なれば、と言いしかば、⁷¹ペトロ呪い、かつ誓い出でて、われ汝らの言
 える、かの人を知らず、と言いしが、⁷²たちまち鶏二たび鳴けり。かくてペトロ、鶏二たび鳴く
 60-59

前に、汝^ニたびわれを否^{まん}、とイエズスののたまいたりし御言葉を思い出でて泣き出だせり。

① ラザロの姉妹マリア。② デナリオは、およそ三十せんに当たる銀貨。③ 聖書に。④ ザカリア 13・7 ⑤ 父の意。⑥ 苦難の形容。⑦ 衆議所の三団隊。⑧ 師よ、の意。⑨ 名はカイファ。⑩ 冒瀆を忌む印として。

1

第15章

イエズス、ピラトの前に出廷し給う（マテオ²⁷・ヨハネ¹⁴、ルカ²³）

大司祭^{*}らは、律法學士^{*}、長老^{*}ら、および全議会^{*}と計りてイエズスを縛り、召し連れてピラトに渡しあが、²ピラト、イエズスに向かい、汝はユデア人の王なるか、と問い合わせしに、答えて、汝の言える「どし」とのたまえり。³かくて大司祭ら、あまたのことをもって訴えければ、⁴ピラトまたイエズスに聞いて、汝は何をも答えざるか、彼らの汝を訴うる事がらの、いかばかりなるかを見よ、と言いしも、⁵イエズスなお何をも答え給わざりしかば、ピラトこれを感嘆したいり。

バラバ、イエズスより先にせらる（マテオ²⁷・ヨハネ¹⁸、ルカ²³）

6さて祭日にあたり、総督が人¹⁷のこうところの囚人一人を彼らに許すの例ありしが、⁷ここに一揆の時、人を殺して一揆の者どもとともにに入獄したるバラバと言える者ありき。⁸群衆、出頭して例のごとくせられんことを願い出でしに、⁹ピラト答えて、汝ら、ユデア人の王を、われより許されんことを欲するか、と言えり、¹⁰これ大司祭らが、ねたみによりてこれを渡したることを知ればなり。¹¹しかるに大司祭ら、むしろバラバをおのれらに許さしむべく群衆をそそのかしかば、¹²ピラトまた答えて、しからばユデア人の王を、わが、いかに処分せんことを欲するか、と言いしに、¹³彼らまた、十字架につけよ、と叫びたり。¹⁴ピラト、彼は何の悪をなししそ、と言いたれど、彼らますます、彼を十字架につけよ、と叫びいたり。¹⁵ピラト、人民を満足せしめんと欲してバラバを彼らに許

し、イエズスをばむち打ちてのち、十字架につけんために引き渡せり。

イエズスまた嘲弄せられ給う（マテオ19章27節）**16** ここにおいて兵卒ら、イエズスを役所の中庭に引き出だして全隊を呼び集め、**17** イエズスに赤き上着を着せ、茨の冠を編みてかむらせ、**18** ユデア人の王よ、安かれ、と書いて礼し始め、**19** なお葦もて、その頭こうべを打ち、つばはきかけ、ひざまずきて拝したり。

十字架の道行（マテオ26章32節、ヨハネ19章16~17節）**20** 嘲弄してのち赤き上着をはぎて、もとの衣服を着せ、十字架につけんとて引き出だししが、**21** 一人のシレネ人、名をシモンと呼びて、アレキサンデルとルフォとの父なる者、田舎いなかより来りて通りかかりければ、しいて、これにその十字架を負わせ、**22** イエズスをゴルゴタと言う所に引き行けり。ゴルゴタは（カルヴァリオ）すなわちされこうべの所と訳せらる。

イエズス、十字架につけられ給う（マテオ33章27節、ヨハネ38章19節）**23** また没薬をませたるぶどう酒をイエズスに飲ましめんとしたれど、受け給わざりき。**24** かくてこれを十字架につくるや、たれが何を取るべきとくじを引きて、その衣服を分かてり。**25** 九時ごろイエズスを十字架につけしが、**26** その罪札ます札には、ユデア人の王とするされたりき。**27** これとともに二人の強盜こうとう、一人はその右に、一人はその左に十字架につけられたり。**28** かくて〔聖〕書に、「彼は罪人に列せられたり」とあること成就せり。

人々の侮辱（マテオ23章39節、ヨハネ43節）**29** 往來の人々、イエズスをののしり、頭こうべを振りて言いけるは、ああ神殿をこぼちて三日のうちに建て直す者よ、**30** 十字架よりおりて自らを救え、と。**31**

大司祭らもまた同じくあざけりて、律法學士らと語り合ひけるは、彼は他人を救いしに自らを救うあたわず。32 イスラエルの王キリスト、今、十字架よりおりよ、しかば、われら見て信せん、と。ともに十字架につけられたる者どももまた、これをののしりいたり。

32 イエズス、死去し給う（マテオ²⁷・ヨハネ⁴⁵・ルカ²³）⁵ 33 十二時に至り、地上あまねく暗闇となりて三時に及びしが、34 時にイエズス声高く呼ばわりて、エロイ、エロイ、ラマ、サバクタニとのたまえり。こは、わが神、わが神、何ぞわれを捨て給いしや、と言う義なり。35 かたわらに立てる人々のうち、ある者ども聞きて、エリアを呼ぶよ、と言ひけるに、36 一人走り行きて酢^オを海綿^{かいめん}に含ませ、葦^{よし}につけて飲ましめつゝ、おけ、エリア來りて彼をおろすやいなやを見ん、と言ひけるが、37 イエズス、声高く呼ばわりて息絶え給えり。

38 時に〔神〕殿の幕、上より下まで一つに裂けしが、39 エズスの向こうに立てる百夫長、かく呼ばわりて息絶え給いしを見て言ひけるは、げに、この人は神のみ子なりき、と。

40 婦人たちのこと（マテオ²³・ルカ²⁷・ヨハネ⁴⁵・49・55） 40 また、はるかに眺めいたりし婦人たちありて、そのうちにはマグダレナ・マリアおよび小ヤコボとヨゼフとの母マリア、ならびにサロメありき。41 彼らは、イエズスのガリレアに居給いし時、従いて仕えおりしが、このほかにイエズスとともにエルザレムにのぼりたりし婦人も多くいたりき。

42 イエズス、葬られ給う（マテオ²⁷・ヨハネ⁵⁶・ルカ⁵⁷・61・38・42）⁸ 42 夕暮に及びて、安息日の前なる用意日なれば、43 頭^{かしら}だちたる議員⁹アリマテアのヨゼフ來り、おのれも神の国を待てる者なれば、はばから

44 ずしてピラトのもとに至り、イエズスの屍しかばねを求めしが、44ピラトはイエズスもはや死亡したりや
 45 といふかり、百夫長を召して、すでに死したりやと問い、45百夫長より聞き知りてのちヨゼフに
 46 その屍を与えたり。46ヨゼフ布ぬのを買って、イエズスをおろして、その布に包み、岩に彫りたる墓
 47 に収め、その墓の入口に石を転ばまわしおけり。47マグダレナ・マリアとヨゼフの「母」マリアとは、
 イエズスの置かれ給うところを眺めいたりき。

①ラテン訳では田舎家。②麻酔剤として。③原文では三時。④イザヤ53・12 ⑤原文では六時。⑥原文では九時。
 ⑦ご受難の予言であった詩編21(ラテン訳では22)編の初めの言葉。⑧金曜日。⑨衆議所の議員。

第三編 イエズスのご復活およびご昇天

1 第十章 婦人、墓に行く(マテオ28・1、ルカ24・1)
 2 ヤコボの母マリアとサロメと行きて、イエズスに塗らんとて香料を買い、2一週の初めの日に、
 3 朝早く出でて、日すでに昇れるころ墓に至り、3たれか、われらのために墓の入口より石を転ばまわ
 4 しのくべき、と互いに言いおりしが、4目をあげて見れば、石はすでに取り除きてあり、そは、
 はなはだ大いなるものなりき。

5 天使の出現(マルカ24:5～11) 5かくて墓に入るに及びて、右の方に白き衣服を着たる少年の
 6 坐せるを見て驚き恐れしかば、6彼、婦人たちに言ひけるは、恐ることなけれ。汝らは十字架
 につけられ給いしナザレトのイエズスを尋ねれども、彼は復活し給いて、ここにはましまさず。

7 その置かれ給いし所を見よ。7 ただし行きて、その弟子たちとペトロとに至り、彼は汝らに先立ちてガリレアに行き給い、かつて汝らにのたまいしごとく、汝ら、かしこにて彼を見ん、と告げよ、と。8 婦人たち恐れわななきつつ墓より逃げ出でしが、恐れのために何ごとも人に語らざりき。

9 イエズス、マグダレナ・マリアに現われ給う（ヨハネ20章11節）9さて、イエズスは一週の初めの日の朝復活し給いて、まずマグダレナ・マリアに現われ給いしが、これ、かつて七つの悪魔を、その身より追い出だされし女なり。10彼行きて、イエズスとともにありし人々の悲しみ嘆きつつあるに告げしかど、11彼らこれを聞きて、イエズスが生きて、この女に見え給いしことを信せざりき。

11 二人の弟子に現われ給う（ルカ24章13節）12そののち、彼らのうちの二人、田舎いなかに行かんとして歩む道すがら、イエズス、異なる姿にて現われ給いしを、13彼ら行きて他の人々に告げしかど、またこれをも信せざりき。

14 使徒たちに現われ給う（マルカ24章20節）14最後にイエズス、かの十一人の会食せるに現われ給い、おのが復活し給えるを見たる人々の言葉を信せざりしをもって、彼らの不信仰と心のかたくななることとをとがめ給えり。15かくて、これにのたまひけるは、汝ら、全世界に行きて、すべての被造物に福音を述べよ。16信じ、かつ洗せらるる人は救われ、信せざる人は罪に定められん。17さて、信ずる人々には、これらの印、伴わん、すなわち彼らは、わが名によりて悪魔を追い払い、新しき言葉を話し、18蛇を捕え、死毒を飲むも身に害なく、病人に按手あんじゆせば、その病やまいえん、と。

20 19 イエズスの昇天（ルカ⁵⁰ ₅₃ 24） 19 彼らに語り給いてのち、主イエズス天に上げられ給いて神の右に

坐し給う。20 弟子たちは出立して、あまねく教えを述べしが、主、力を加え給いて、伴える印によりて言葉を証し給いたりき。